伊勢物語の初段
かすが野の
若草乃
もえいでしも
春のゝをとこ
うぎり
まつ
まど

在原業平朝臣
世の中に
たえて
桜の
なかりせば
春の心は
のどけ
からまし

清少納言

清女ハ肥後ぢえ載の
女せゐ ゐる年のそ ぢあ
いとふなけるふ帝紫
図ふ出ゐ わりて
香炉峯のゐ ゐた
いりふと群
郷ふ作
ゐしゐあて
答ゐ人も
なりーふ
清お納言
ゐくらーふ
ゐりーゐつと
ゐゐく清簾と
巻揚しゐ帝
ゐゐゐく春感
ゐりゐるとゐり

ゐしハ唐の白樂
天ゐ白ふ香炉
峯の雪ハ簾と
揚て
看ると
ゐる
ゐゐひ
出ー
て清ー
簾と
巻ゐる
ゐゐり
其ハ中
ゐゐれ
給ー
ゐる
車
ゐる人
ゐんー
ゐゐと
なり

貴船

和泉式部い

和泉守道貞が妻ふかく式部おもひいのふとありて

生れおりしでく

ひよの洗川とてきて行とて

螢乃とびかゝとてとてゝ

ある物おもへば沢の蛍も

我身よりあくがれいづる

魂とぞみるとよみたまい

明神御ものしふ

奥山ふかみぎりあるる

激はせのさまちるぐるま

物ふるひをせ紙宣あり

女教訓平生ぐみ

かぎりあく

いふ

ふ

ふ

若人をしたひて
ものしたる
あるかの中なる
森の中なる
あさ河なる
ものも

小野小町

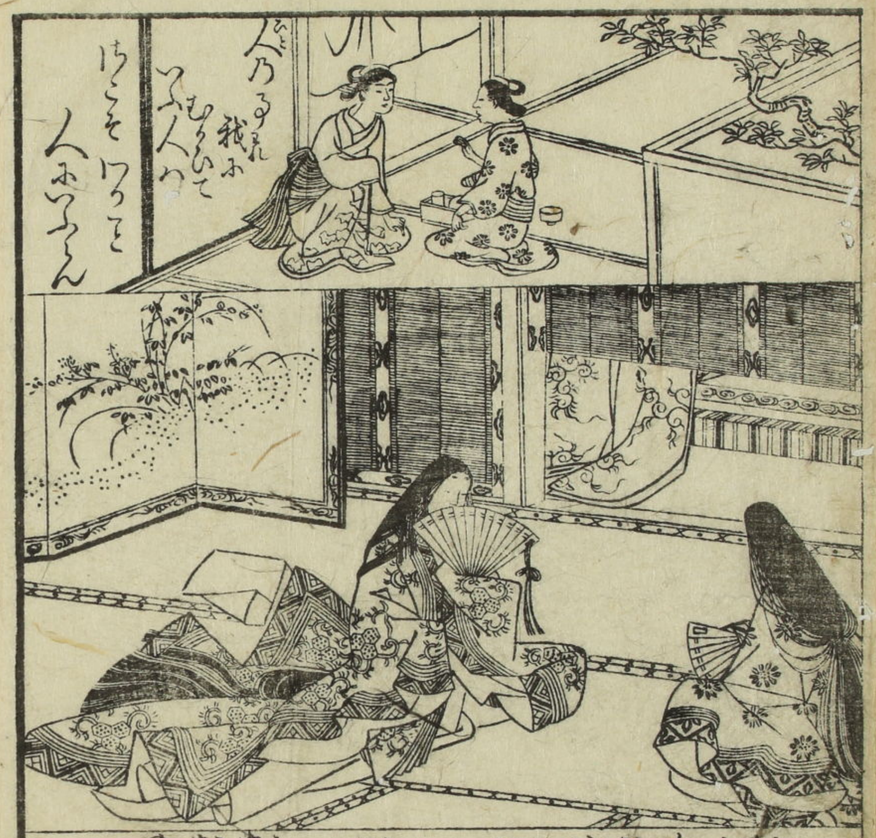
小町ハ出羽の郡司小野良実ノ女仁明帝の御時ニ仕ヘ美人乃誉高クして美人乃かたちかつれなく徒ニ年ヲ経ル時なれ奇人あり名しべある時門裏ニて清奇合あるべしとて水を茶として乳とそさとーー

浦ふかくに
行ばさそ
うき草乃
浪のうねく
おいたぐらん

トラの巻直
寛表三年小伊勢大神宮へ
勅使を立られ時ニ雨降
なさるべ

天津風
あをれやえ雲
吹とじ
をとめの姿
しばしとゞ
日乃ゑ
ゆく

かく俗ハ名れを留て
幣を捧ぐ
勅使の名
ちはやぶる
とや



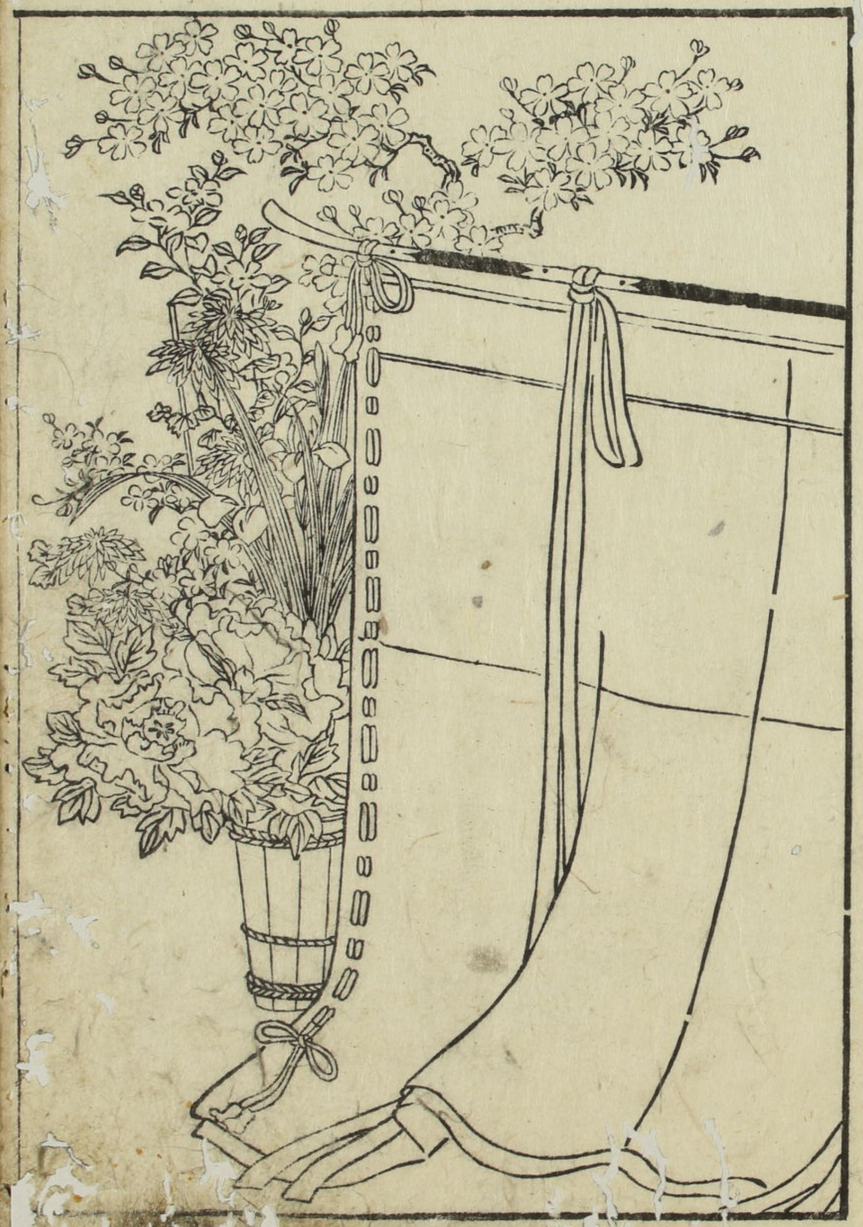
人のるれ我ふ
むらいて
つ人わ
ほとそ
ひろを
人ふるん

大江の姫

帝ものまとこ院ふおそ一ほ一て大
江乃玉剛ぐむをめを召して名
ひとつ人半をかくし髪にして
欲しと仰しれをでうけ
りてくよを
滝をども
かひなれ長ふ
あひめをで
霞なし孫ど
きちのぐてをり
帝ものいかんあんてほうちき一
かさひ歯座ふ給りそしてう
のち時ぐ召れて侍霧滝
かぐざを
きり

ひろ心
後ふ
ろる
のなるば
さそそハ
げれ
ひふくろ

昔男ありけり人はむきめ紙
めをそてむさーの御てゆく
往ふぬを人なりをハくふの
ゆみふかーめーしふろう女とハ
きもむの中ふあきてみけり
ゆりろくる人はめをを人
あんなれとて出ほんとす女
ろびて
むさー野ハくふハ
ゆやきと
ひろ者ろ
はももこきろ
ろれもふも
ろ
とみををきてかとい
ろりてやりふめをいふゆ



大中臣父子

祭主神祇大副従四位下大中臣頼基其男従宣官文ふ同し文
れ基御賀の時よめる。一名ふ代

ふるとしにいつくしもなれいつくしも
君がよはひ八子従宣も親王御賀
賀ふ〜ゆれて〜ゆれて文ふまく〜
ろふれ基従宣ふむひてつくふ
賀や〜ほるで従宣ろく〜と加し
すつ〜せ仕ふ。ふ蔵までうぎ有る
松も久ふ〜ふ〜ふ君ふひろれて万代
ろん〜ふ時れ基面でそん〜でそ〜ふ
松とよりて従宣でそん〜ぐふ〜ろ
ろ〜て云ふ〜ろふ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ
日ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
賀ふ〜ろ〜ふ日ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

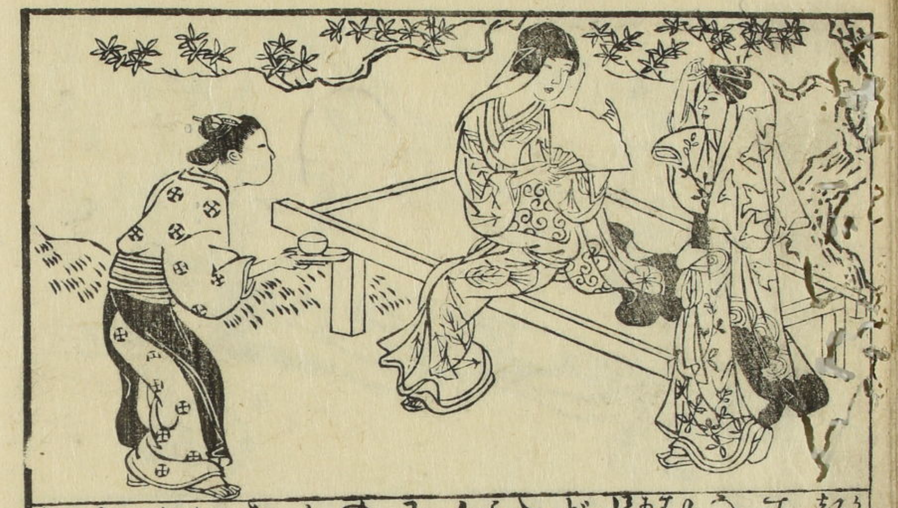
和哥の事は[illegible]著聞集小もとのそ
古風しうおくのほそ道に秋は列の
雲伯さう三十一字のまことをうんと
りて数々万葉の仏ちゝ[illegible]の人
古今の序ふりの仏をくく人の仏を
さもとてさうげの
このそとぞあり
ふるこれふりて
神明のこゝもまて
あハずは五賢人にも
うゝず賞し給ふ
まつの花のゝ秋
の月はせん見と
りてもあ中
ぐらとこまをりて賞玉の
友とすとうゝて誠ふ人と生れて

哥の道まてれいかのあき
ぐなりべ生をなしむす
わこうれも世てのあ井を
うゝこきうず社耳ふ古人て
仏ふわぢりひんぢる
時ハやぐて仏ふ人と
ゝて者ゝうあり
ゝいゆ花人の哥
ゝて人の道と云ゝる
たゆゝらぞゝるふゝゝる
わゝずさしべ様古徳
行の事ハ師もあり出も
りゝて人の[illegible]ふゝゝゝ
ゝゝる哥ふい勅撰[illegible]
和哥集ゝ林夏[illegible]和哥明ゝ集とろゝ
ゝいきあり[illegible]

女風俗候時

一 熟く男女ふさくしてゆのたーふさくと人の風俗くみとつり仕古和國ハ諸人の衣服も宮人の神代の末さうつーりるふ意祥天皇十四年ふ衣服の裁造はすりそ保北古天皇十九年ふ男女採種をゞ深衣とぬぜゝれ又正天皇十三年ふ冠の間つちわりてお耳の時ハ根明の神下長く男子ハ十あ長さでまつて丸袖ふるーー女子ハ袖ふつもつぐるも十九の林袖ふさぐ事ふして古本の袖とおぶつ裁とを風俗を改もは氣ふまつてをのづゝ深もこふくしるしやを時ハ長ふ田舎そぐちの婦もこの風とゆつつふ風俗拾ひ有ぬ荒もつきと旅し拵ぐ袋と薪とるぢ山人の味る下ふ花の袖とるるふ次女をうつーほつきの鉢とのぐ茅ハ結びめふ氣をつ脚付ふ紅のくけ紐付歩行ぐりふ正代ゆり塩焼海士も時豆袋ときそわや男子のうーあづまかーげもふ山ふ紀て祥く

かけてうーめつしき風俗と人でぬわふふきてくみを
ぐーて高市岐役男乃役而ぢ人ーー森墨衣ぬれの男平
あるるゆーふぐ忍付て宗あつぐーぐ仏ぎを人ふぐーぐ
めきてーーふしふき女平ハ彼ふるるーりるゆーにてーふ
うーて新ふふーら宗ふぐり舞まる人の中でれーりみ
芝みーぐーの風俗ハくるあく素女の風俗とハつく
べーんぐで衣れお上代風のゆーー今の風ふハ神ふ紀
さるゆーにふ山ハも彼ふ三氣ふく花束にゆーし
今いづくの祖ふ仕ふーく人ん掏ぐ茅乃ふむつび棚を
ぐきさるふとくにーてさるふぐーー揚半紀の國わるふハ
筆わめ庫筋の夏昭女ふる仏紀ーて先ふふれーふん
ゆりぐーーふ宗ーけいぐ宗在女の風ふ紀ーー上ふの太
ふまて称吳ーる一祥とふるふおるけ筋のつまるを
庫在ふまれーるけーふ宗るけふーーふ宗ーーー



わふてるひとけしてとてもうつくしくて公家
とたのふまうぐとつぎやう公のおけすれとも
来ときなどゝいふぐひのおもせうぐを約束
うやまちりて人の目よりうつくしいまた人のまつ
そやうなる女まうるとうはさあるとこれをまた
てそうしどの〻四方これいぐるとこの国女乃れ
よかどくいろ〻付る約束のせうぐといふ人ぐ
ぐ玄のまけられ文医ばり狩〻ばにざいひ乃
さよふもなりにるゆきせ乃人まろあきと
ゆ法しまくろ紀名のけともあうやせ化ぶ
よくはくろくわどを公ぐけ才一にまのしてうにも
お和師後りとうかどふれまいくすれ五ま乃
いひ名付又い出合男の方一の名なとまてやりの
るゆめくあべべ女中いまに装とうけあやう
を魚深く公ぐけのべ〻せふ三十二相おおる
天性の美人とふい称せ呂公と付分嗜やろそ

び立るまい風俗を第一に公ろけるの人間魚と見
形そをろ乃ろ乃ぞ女の風俗艶時ゝまるき門まろ
けゝるいぎんで實乃なるそそそゆゆゝ覚人
乃ぞ女中の肝門ろべ〻

里仙士人肖像
兼房美ふ見るホの里の海士の
奥の
喬仙の阿波の
名所孫崎ふあり
はるの里海士の
人麿の歌と
ゝり俤ちぎ
美小梅の花の
ちくるとゝて
奇仙ふあひまり
梅の花
それとも見へぬ
久しくの
あまぐる雪の
なべてふるべ

雪小町
いふ人天下旱魃して三月の
あひだ雨ふざる也ゝば上下
万民困ゝうひまどゝ
ゝ紀勅定ふて小野小町ふ命じ
使て雨ふいのゝ事ゝの傳言ふ
小町神泉苑乃池のほとりふて
ふとりや日のもとゝ
さゝとゝ
と祈ゝ
三枝の森雨ふるゝ
と日ふ壁ふ拝てゝ
ゝ僥ふして民安全ふくゝ
ゝとゝりはゝや奇ふて天地
ゝ雷神ともゝ
ひとゝ

男女ともに八ぢは
ゑちごーまに二人あるぞーとふ
せいじんーてんぞろどあるし
ぞふ
ゑる世をなこの人ふとぐま
ふしまちの宝ぶーかいぐ

男女水始八ぢ恆月已但
子二人ゑ人ぞーしゑーじを
ずつてしたんぜんホーてゑを
ゑしぐゑーあーきゑり ぞふ
ちくやゑるくゑもわゑしをふ
ちゑんいちの四さのじ林月を

男女女ゑ子ゑ女ぞくゑん
なしべゑふゑんだーつゑ子
ゑをゑりくゑかとちふをくて
ゑーぞふ
あひをぬーゑのゑゑふもなろ
月ゑんきゑ法ゑしをゑりぞゑ

永式紀
ゑの時態野すすで
ゑてゑるおさつりふ
水ゑまこハ
ゑいい
ゑ弟
ゑふ
ゑ
ゑ
ゑ

男女共太平記ニ三人ノ人ノ名ハ
人ノ名ハ名ノ字ハ一字ニ
名ヲ付テ呼ビ合ノ門ノ
もたうとうそべーおふ
おひそめーゆとふくむそび
てーきてこうなりけのきをれさそ
男火女木ニ成ル人ノ八人
ノ名ハ名ノ字ハ木ノ字
てーしーうーむーすーりーるーんーあーり
おふ
たのりにくまれたんとおりれ
ごせとれてそうびーこうなり
男火女金大きふまろーー但ま
吉之ノ二人ノ三人ノ名ハ
りふとやーーきおり但ーー人ふ
ちーーろくーともおりこおふ
いつーーうとれりひーまろひま
もたーおりとそうびーこうなり

女ノ名ノ姓ふうり吾悪之事

福茂 伊武 万門 初文 猪次 橋次 満留 梅ふ 包芳 秋三 七晴 沢哥 蘭栗 乳八 無満 久文 猫霜 市林 百種 勝貴 政

松辰 名常 積桂

太字姓ノ人ふうり
本姓ノ人ふうり
火姓ノ人ふうり
ノ姓ノ人ふまき吉

右の字姓ハ金姓の字之
ノ姓ノ人ふ
本姓ノ人ふ
金姓ノ人ふまき吉

男木女水大きふまろーーまり
われーーもひんえーまくーーもれ
とばーーにおりーーんせーーりとありま
三人ノ四一人ノ名ハ
りーーともおわーふまろーーにが生
どもーーーびーーひーーろふ生ーーまふ

男女共金大きふまろーー但ま
ーーー

男女水をきふるひ
行ども人のすがたをうちか
へすやうにしてほいう
うぢうぢとまつるべしおふ

男女ほうきをもつて
つるぶろふれりんけんのみた
ちろいさまのようとう

男女ほうきをもつて
くれどもほうきをもつて
あやうとすりつ下ろうはわさおい
るはしおふ

つちとをふをんとあるみる中は
れどいのまを神のめぐまのなり

男女火をふはしるみんはをく
をうふをしはるもんのまくをり
むびやうふして命をしつよふぢ
をんをすつるべしおふ

はうれしいもたのしたもぐ
男女ふろびのわふをしうれば

男女金女水をきふるひ始はし
ほるもしるをんをんをんをひとをを
をてんをんをすつるべわをふ
入をしおふ

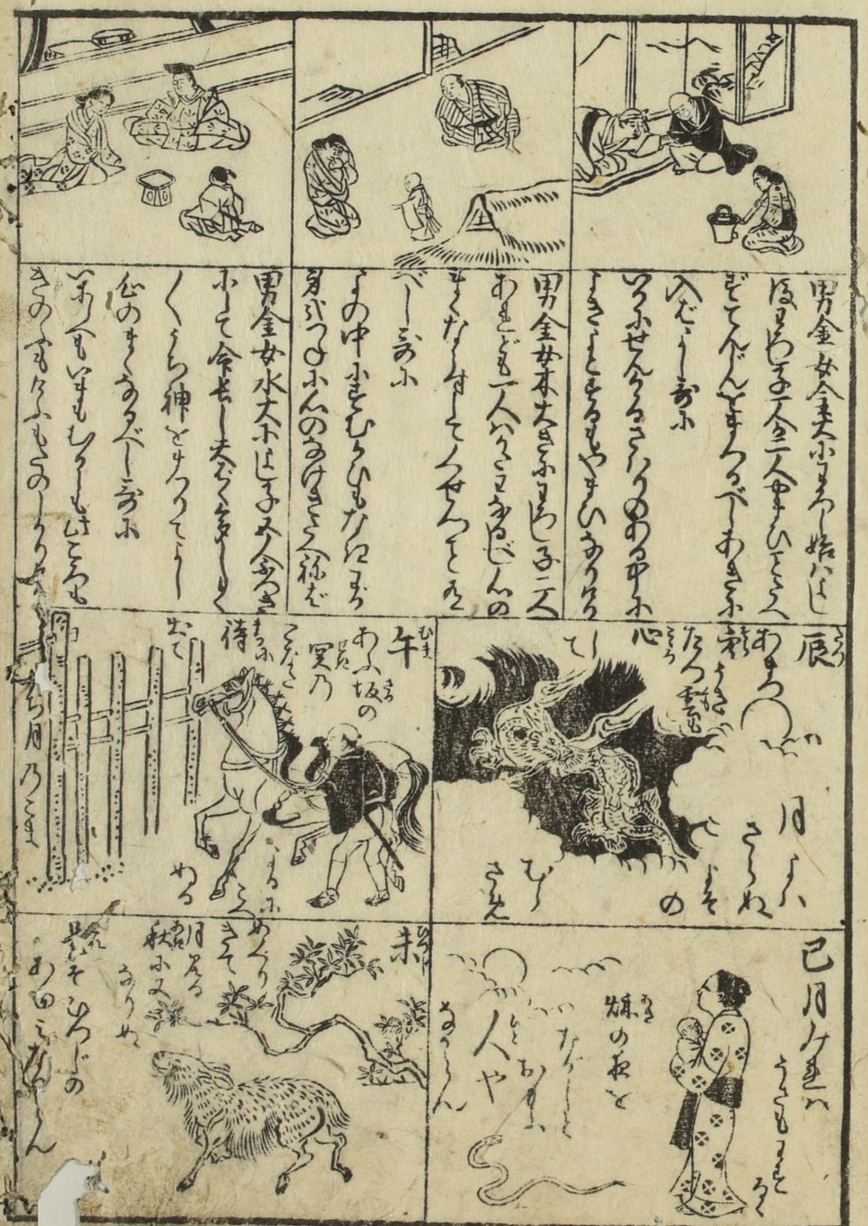
ろふせんろををろのある中わ
ををををををもやまいをうろ

男女金女木をきふるひしるをんを
わををををんをんをんをんのを
をををををををををををををを
べしおふ

をの中ふををむをひもなにをを
男女つをふんのをけをを祝を

男女金女水をふはしるみんをを
ふをて命をををををををををを
くをを神をををををををををを
仏のをををををべしおふ

をををををををををををををを
きのをををををををををををを

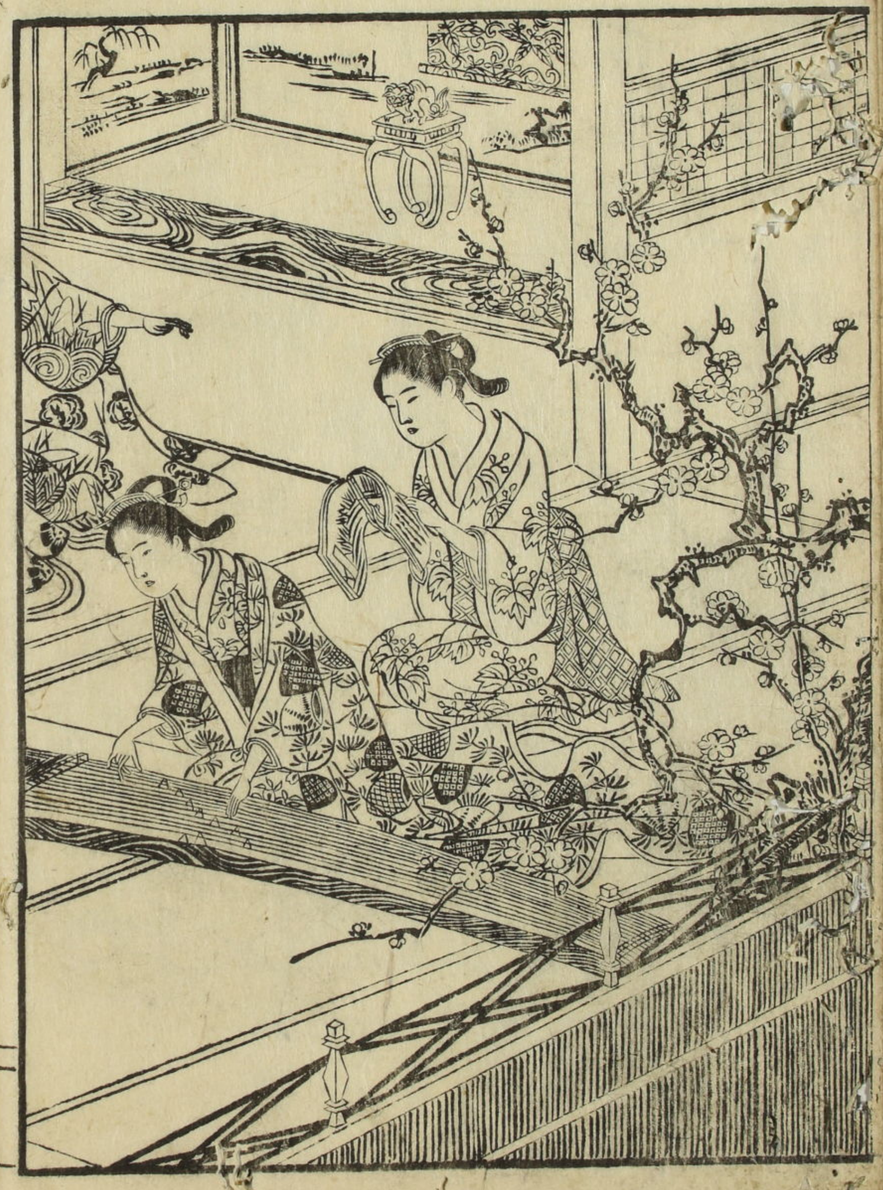


男金女火大ふまろしま一人
あまとぐもの ちとちとこと
ふ ちんちんべーおりふとちと
なり ぎふ
むーーーーーーふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ

男金女土大さふーーーまま人
ふ九人おりいちくちりふと
ふりきふーて天下とちる相ち
命七十下人おーーふちちいば
ばちまいおーーるりふちん
おりちちくどーーーちちくどーーーちちくどーーー

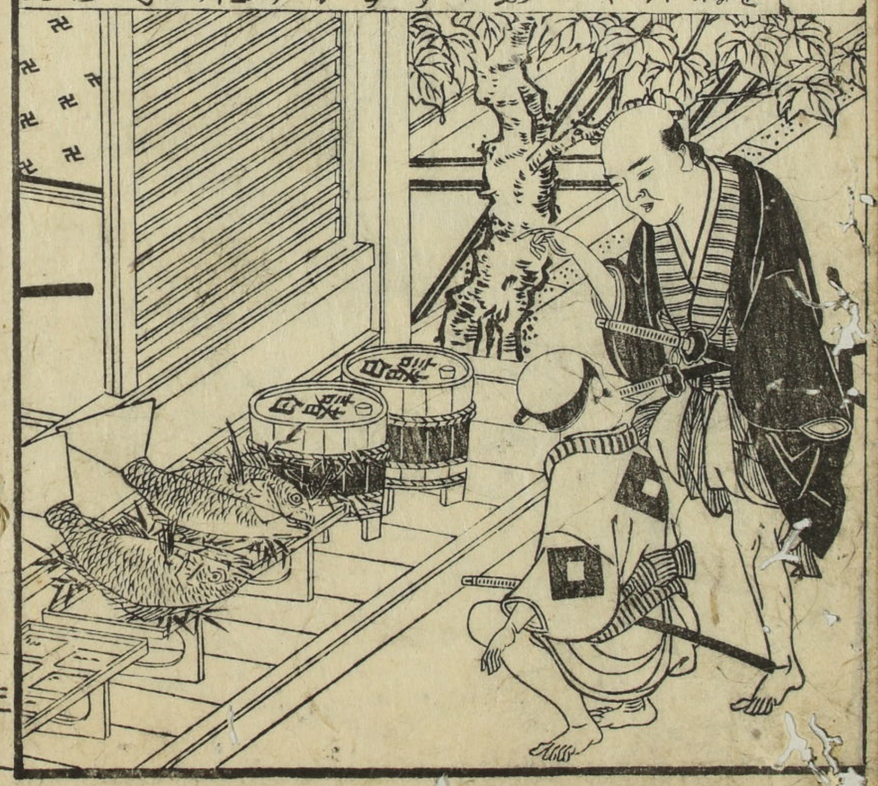
百人一首の故事

京極中納言定家卿
小倉山荘の障子に百人
一首の色紙形ふる記を
もとめて彼色紙今の
代にのこるに大に古有
其障子乃腐ばふるきを
ぐひてはしらもなる
べ時代もすぐれたるを
乃家公化者をとゞめ
ちらし



婚礼の図 弐

女い神やれ家と出てまのあを
我者とさる面嫁とつふ字い女
乃ん与あ加とかくなりよあいひてて
まの交舟とつのあやと加ダよく
ほ人とよあの乃をつくるべー
それ婚姻ハ嫁と仮て手ま結ふ
となり嫁ハ家ハ倉歟ハ付し
さまべ嫁ハ婿の乃んをそりむす
びあ家ハてからあのさうびなの
りて報日限を実ハ男ハ方ハ
赤色と神ろ是を結納とり
あるも分限ハ為わり五荷五種
三荷三種それなりりさ為て五
てハ手指て肴ハ牛指ハ肴
又ハ又種ひとハ牛指ハ肴
十ヲ 肴ハ種ハり或ハ鯛ハ

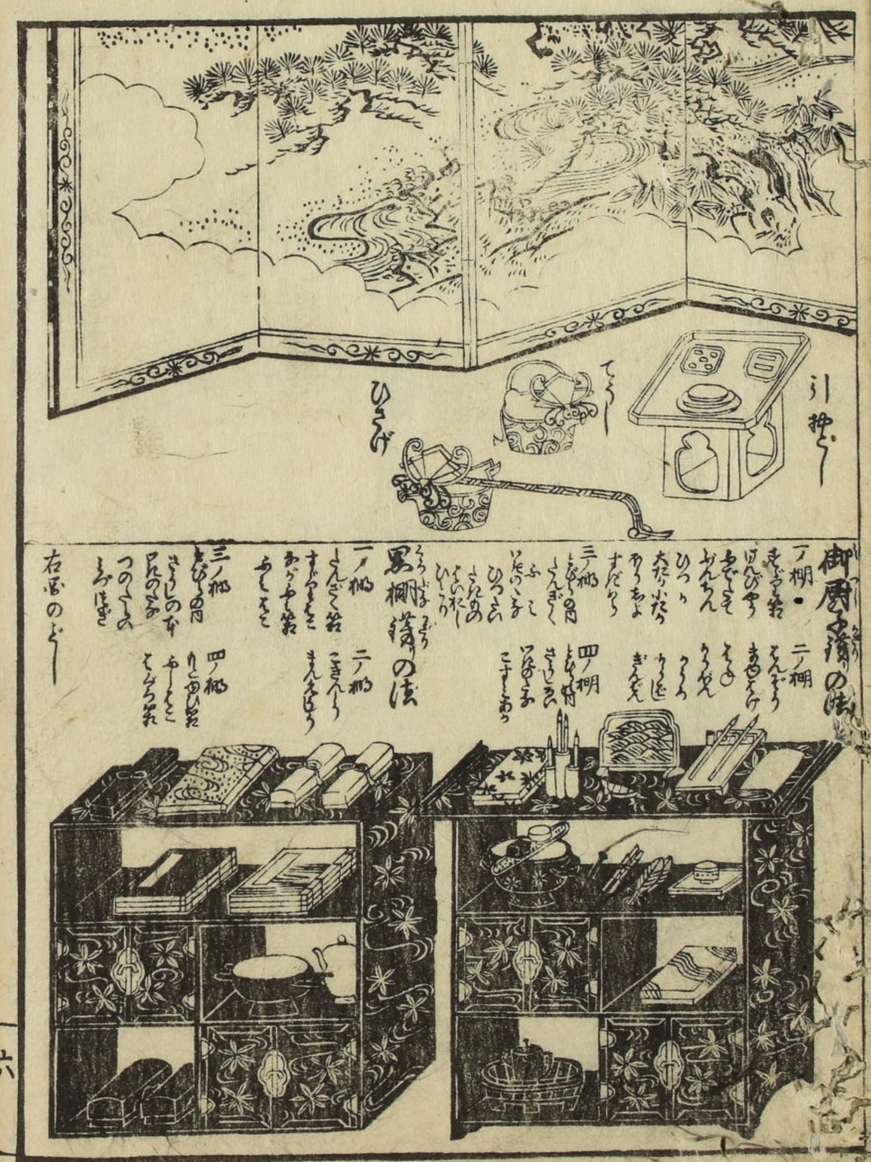


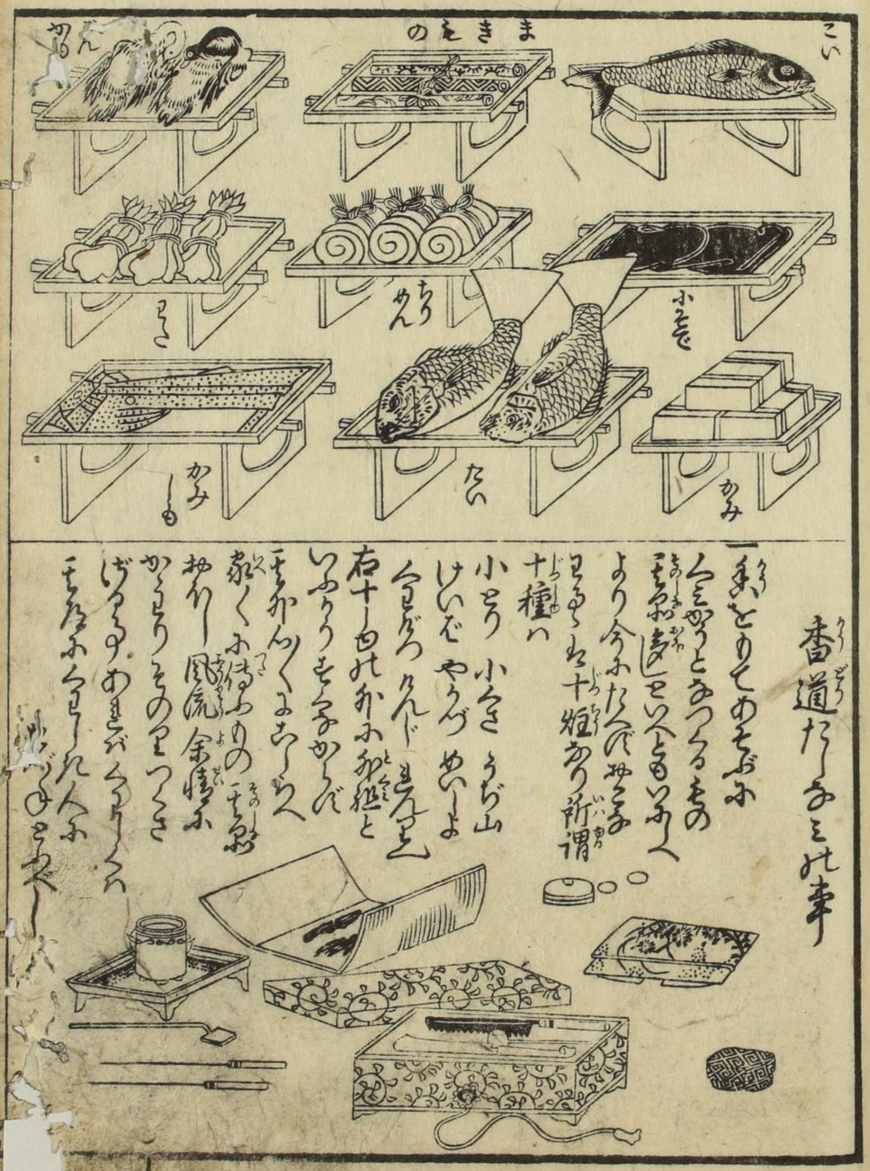
さるあ加つ乃也 の一ま人
是ふ絹布とそあるなり或ハ
小神乃重ね一ま小神ハ右面
とそ地ハ伊ハそるあ面むく
紙むく一つそ弁ハのこりりの
るハ伊ハそも分限ハ為なり
伊ハどころあとハ当ハのふて
も第ハ一ま神ハそあろ本式ろ
其のち月と為て舞ハ伊ハる
ろ一世俗ハよあ人の濃むハ
いりさるるりありさまきふ
あやまりとあべーあるまるも
ろ〜ふてハろく猜ふしよハ
を当一とそれハいるふうふなり
とるハふはろ世式ハふハりるる
まじ淡してお姓ふどきんを
いるざるるりなり女のろ伊
ど式猜別れるりの為ねをきんを

舞衣はいるのうちて雑巻
ぜのごとくのわすれ女郎とも
とろあり引久幸作いづる
其のうちむとのいくたるなり
いふをでをゝるなり是を
魚お丹といつりたのうちまう
とあうとあけんざう亟一家
ちくきゆわりまえ月ゆあ
へ月ゆありとも異ひきと
もいつて物やさとへ好異ゆて
さうつとしてむとのうとかるる
をとゝおうとといつりたのるる
ふあうとの一家ひろめとて
あんるいさりとらをよびて
のてあすあとなりあをとゝ
ふうくいたあるあるるとこ
絲とふなる

又囲のさうつきよあのうと

よりれ糸のものおてよあ
より物えされことざくとの
てうろなり
わるれ者ふ蟹れのさうづえ
夫とより女ふさえたう吉ゆんと
ある面ふ古代いこれを頭りと
ちやを毋へ物あへて女ゆりまへ
さすゆえへなりぬ時のよろ
あえふあうふなう
且坐うえのまい物ふ蛤をゆら
ゆうゆへ去毋ゆあえ代方れ行ふ
蟹れのまゆへ蛤吸物ふさけ
三ごんをうえべうゆとイうまて
ようてうまりうゆうへ蛤貝へ
かいうけるゆへわゆあゆより
うへものもわうぬりのえあて
女めうきゆふひゆうして蟹烟
ふ耳ゆ目ゆうべ


ひらげ
引物
御厨子の法
一ノ棚
二ノ棚
三ノ棚
四ノ棚
黒棚造りの法
一ノ棚
二ノ棚
三ノ棚
四ノ棚
右図のごとし


こち
まきをの
ふとも
かみしも
たい
番道具の図
小さい
けいで
やうじ
右十一品れかふ和紙と
いふりうきをかりて
敷くふるふりの手ふる
ばかり風流金持ふ
かりとりそのをつくき
げうるゆめ

南蛮はんの衣装をのりきて
今は女のまねをしてかくのごとく
なるべしとさいきねとりそそれな
維摩の一時をそなつる
女のこゝろよみくる

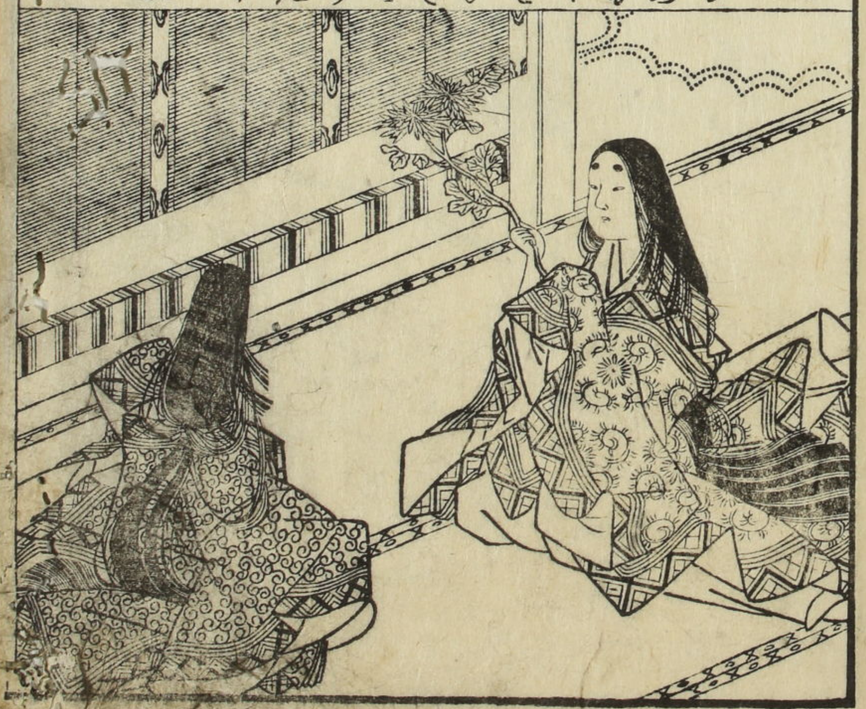
いとやきゝ合なせるかりこゝる
つゞみよりれいうたのそする
とりひやをとれば男胃なくそみ
くろ住くるこゝや

○後冷泉院の治財月比わろくる
衣裳数ふるこゝせゆひ中宮は北方
なるに堅とふ女房を召しあの
花折てまれと伺ひくると承つまく
折てまいらせる者こゝそいつと
伺られるべとりの
あゞれ衆の月比考のなくり共
みうられ花をつゞ折まゝ

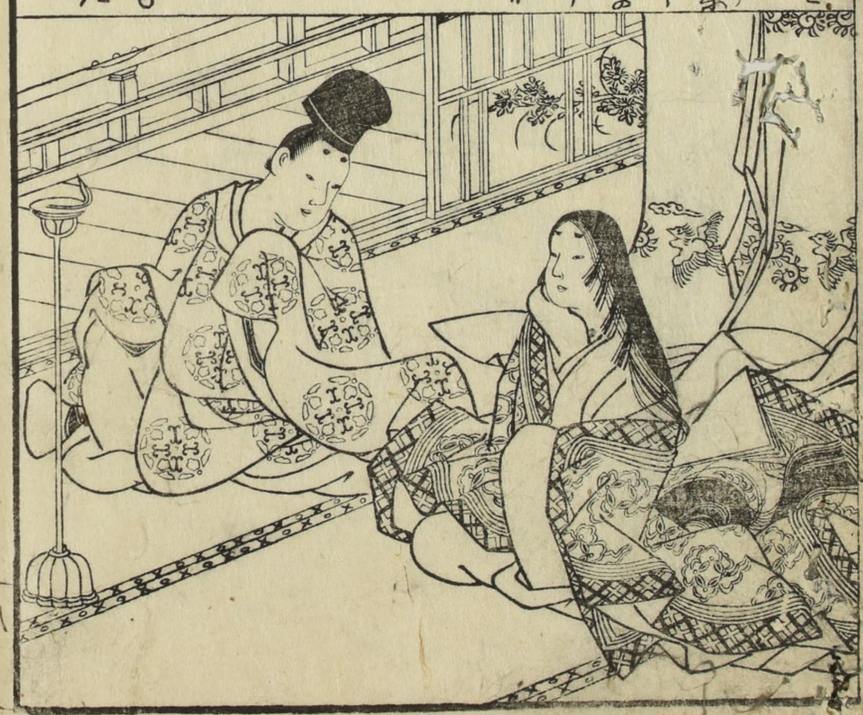
君感じさせゆひ物をどゆゞけ
させゆひくるとゞ

○徳大寺殿つまゞ大納言なくる
とゝ月比ゝをほくさんくる女房の
りとふ抑つて抱くうゝあどせられる
ゞいくゝゝしんゝくさ良れまくゝく
立出て座敷のそのをゆゝんを合て
伺くまる抑ひれゝて肉ゝくをゆひ
けるゝゝゝしゝて座敷の者きくうて
大内の半ゝゝくとゆくれゝばさまを
ゝよひゝ内の月のゝゆくりすれくう
ちそゝゝゝゝゝとしゝゝひるけゝ
をゝんそゝ山女ゝくうゝそゝんゝ抑ゝー
月のゝくうくれゝば

ゝれゝや夜雲のゝゝゝひゝゝゝゝゝ
ゝんゝくうくなる人やくうゝゝ
ゝゝゝゝゝゝくるけゝれゝゝ弧ゝれゝば

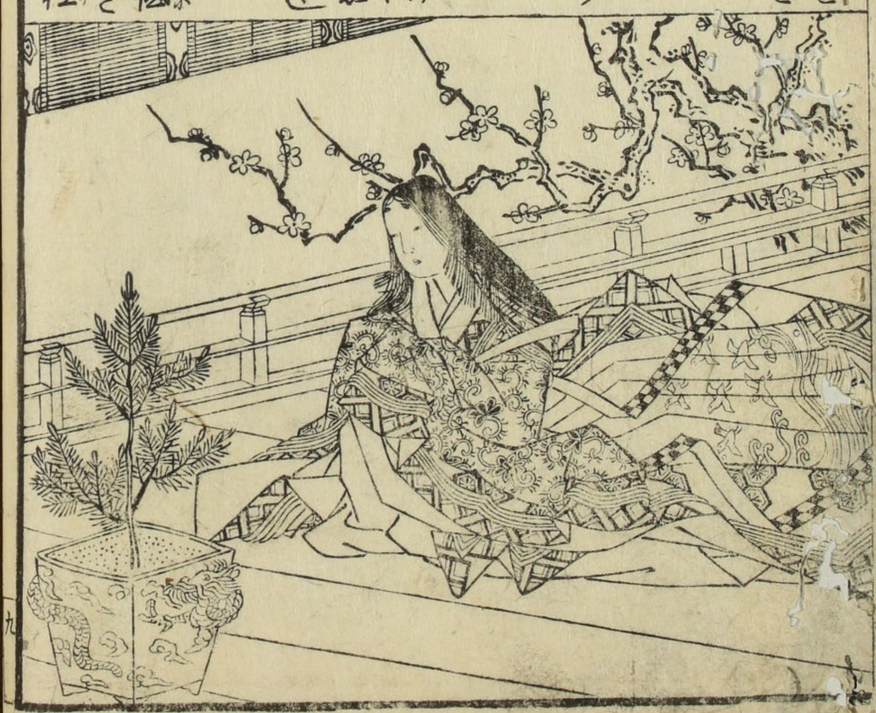


大納言とふめでゝ御のことも押て
[illegible]
○皇子居[illegible]
の擬着をて定家卿の文をてはし
まゝされども布衣なるもめでゝ御の
御目をかけられて寄月の御
まつりと世儀のこゝろをきゝれ
くるあに
夫日御
押くるの[illegible]
むりれ[illegible]
[illegible]ぶ御の
[illegible]
[illegible]
かくあんよこのひとゝびのこゝろ
のふじ世[illegible]
めさめひとる



○小式部内侍は和泉式部の女
なり幸女は御よりよく有とよ
ばれ時の人なり母ゆよみく
いひふるゝと風実ゝりある時
母の式部丹後へつかはしける
樋口殿より尚産の祝金五両小式
をもてよみよくゝられさう宝歌
中納言たゞのぶ卿小式部を丹後へ
やりし使いの帰り中とりひて居れば
とゝられくるを内侍殿華笠より
出て出衣の袖をひろゝて
大江山いくのゝ道の遠けれ
まだふみも見ぬあまの橋立
中よみうけられて宝歌久しかも
及ばぬ袖引ぬきてやげられる
又ある時君臣霧雨の小松傘よ
りとりとゝ押くるゝ中式部

内侍をめされて松のいのりの事を
よみてまとぶらをなんだ〜と
ことのりあるべき
とりや枯て
いふ　姫小まち
千代をぶ
君ぞ
ゆづると
侍りけ
かく詠じてまゐらせたまへばこの松
みどりと生じのこのぞくさの名
ながき君に居やも大きふかんじ
あつりそぞきこえ〜
○平右大将宗盛公江国
池田の長者湯谷が女侍従と
いふ白拍子を寵愛ありて右仕



日まいり明暮出仕のおもひ
ものれてもの思ひのあまりの事
毎日ありてくるべきよう
いひ出してなぜ〜ひとりとども
さらふいとゐあつりるあるとき
東山みさそとれおもふまつり
やふらんをのやしるれ村ふ村ふ
のしそれおれ撥をちらしるる
侍従小尚雀いふと作られ
立くちるさる撥を一ふさ扇り
をへ声前よりてまつり
いふさん紅の乗ル
押りれどなまし
あつまれ
花やちらしん
宗盛公この声ふんで申ぐく
いとゐあつりあつまよべりる

女文章

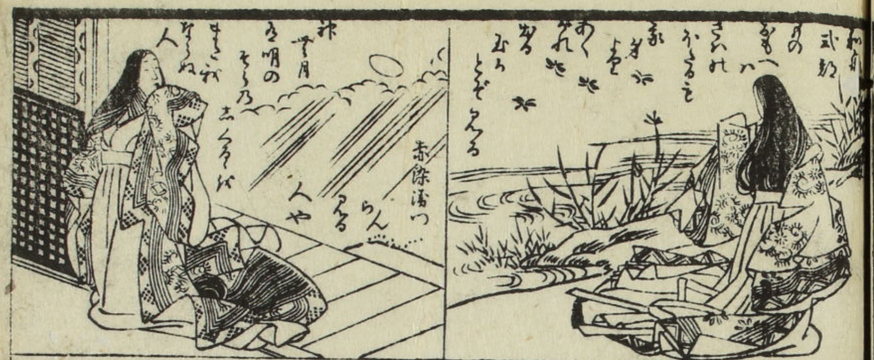
四季詞鑑

日用重寶

教訓媛方

○娘乃事とゝのゝ
ゆゝしき譯ある事
とゝ様女ハ貞心と元やゝて
文ゆ仕ると道ゝん貞ゝハ雖
一ゝしゆ男姑　夫ハ孝ゝう
夫乃兄弟ハ父母を
大切ゆて我子ゆ道理とゆへ
慈愛ゝたゝて孫敏高と思ゝ
心と貞ゝゝ和分と清潔て
心と清くゆゝく万事に付て
和ゝゝん女らゝく詞とはしみ
幼ゝの時ハ父母ゆ從ハ成長
ゝくハ嫁入ゝ男姑夫ゆ
從ハ年老て子ゆ從ハ是
女乃道なり彼他人乃ゝふ
事ゆをせゝ時のゝもきん

從ハ他し女ハ病分れ子ゝられ
をゝと者ゝ民国く片善地
と云ゝと人ゆ從ハ第一乃
和ゝき男女配合すゝ事ハ
世続乃ゝとゝりハけ子孫長
久乃為ゝれハ胎て子と乃
ゝと是ゝゝ女牛一乃役目
なると分ゝるゝけまハ懐胎
せゝ志ゆゝけまハ懐胎せゝ
胎ゆゝと笑ゝく身持ゆゝく
ゝゝ病ゝし正ゝゝゝれハ老子
成人ゝゝく心ゆゝゝ也と古き
書に見ゝゝゝゝまハ其ゝゝし
貞ゝて清く和ぎ從ハ胎乃
文字と云ゝと事なる女ゝゝれハ
ゝて娘と云をゝゝゝ



新板

女文章四季詞鑑目録

初春祝義之条　　初春祝儀之返事

七種之祝義条　　初午祭之文章

宿ちがり見舞之条　　桃之節句之条

花見催之玉章　　卯月音信之消息

卯月八日誘之条　　五月節句之文章

雷見舞之文章　　六月朔日之玉章

祭礼見物之条　　土用見舞之条

七夕祝義之条　　中元祝儀之条

八朔祝儀之条　　月見祝義之条

菊重祝儀之条　　後之月見之条

菊之花を送る条　　独乃子祝義条

髪おき祝之条　　縁組結納之文章

寒氣見舞之条　　年忘を催之条

婚礼祝儀之事　　歳暮之祝義条

冪暮寿之返事

目録畢

教訓短冊手本

楷書

なるべくはけづめて整古其志をうまれつきまことばを丈夫にすべしつぶんは筆乃上下に氣をつけよ物なり

うるわかこひらをとみのいろかぐんえさだめ筆をとめ臂をうかめて字本をひらとく持

大きなる小さい長みじか廣ゝとせまい肩はゞ冠ゝんあうそしくあを決さうそを結見ゝけ筆乃とこびあを深ゝ浅ゝげゝ一をえくあもうゝいえ仏とくぐうやつゝかあ筆のいきわひたりゝなく一字ありとえ合点して字本の文字に似るように書めまで人あまさうてまでおろさて清書をするならば墨くろぐとあらぐるくゆるねやうに書おろ山べ穴ゝとく

草書

(一)新年

(二)千代の

(三)神無月

(四)紫の

(五)四方の

(六)花の

(七)春の

(八)千代

(九)春の

(十)千代

(十一)春の

(十二)千代

(十三)春の

(十四)千代

(十五)春の

(十六)千代

(十七)春の

(十八)千代

(十九)春の

(二十)千代

(二十一)春の

(二十二)千代

(二十三)春の

(二十四)千代

(二十五)春の

(二十六)千代

(二十七)春の

(二十八)千代

(二十九)春の

(三十)千代

(三十一)春の

(三十二)千代

(三十三)春の

(三十四)千代

(三十五)春の

(三十六)千代

(三十七)春の

(三十八)千代

(三十九)春の

(四十)千代

(四十一)春の

(四十二)千代

(四十三)春の

(四十四)千代

(四十五)春の

(四十六)千代

(四十七)春の

(四十八)千代

(四十九)春の

(五十)千代

(五十一)春の

(五十二)千代

(五十三)春の

(五十四)千代

(五十五)春の

(五十六)千代

(五十七)春の

(五十八)千代

(五十九)春の

(六十)千代

(六十一)春の

(六十二)千代

(六十三)春の

(六十四)千代

(六十五)春の

(六十六)千代

(六十七)春の

(六十八)千代

(六十九)春の

(七十)千代

(七十一)春の

(七十二)千代

(七十三)春の

(七十四)千代

(七十五)春の

(七十六)千代

(七十七)春の

(七十八)千代

(七十九)春の

(八十)千代

(八十一)春の

(八十二)千代

(八十三)春の

(八十四)千代

(八十五)春の

(八十六)千代

(八十七)春の

(八十八)千代

(八十九)春の

(九十)千代

(九十一)春の

(九十二)千代

(九十三)春の

(九十四)千代

(九十五)春の

(九十六)千代

(九十七)春の

(九十八)千代

(九十九)春の

(百)千代

(百一)春の

(百二)千代

(百三)春の

(百四)千代

(百五)春の

(百六)千代

(百七)春の

(百八)千代

(百九)春の

(百十)千代

(百十一)春の

(百十二)千代

(百十三)春の

(百十四)千代

(百十五)春の

(百十六)千代

(百十七)春の

(百十八)千代

(百十九)春の

(百二十)千代

(百二十一)春の

(百二十二)千代

(百二十三)春の

(百二十四)千代

(百二十五)春の

(百二十六)千代

(百二十七)春の

(百二十八)千代

(百二十九)春の

(百三十)千代

(百三十一)春の

(百三十二)千代

(百三十三)春の

(百三十四)千代

(百三十五)春の

(百三十六)千代

(百三十七)春の

(百三十八)千代

(百三十九)春の

(百四十)千代

(百四十一)春の

(百四十二)千代

(百四十三)春の

(百四十四)千代

(百四十五)春の

(百四十六)千代

(百四十七)春の

(百四十八)千代

(百四十九)春の

(百五十)千代

(百五十一)春の

(百五十二)千代

(百五十三)春の

(百五十四)千代

(百五十五)春の

(百五十六)千代

(百五十七)春の

(百五十八)千代

(百五十九)春の

(百六十)千代

(百六十一)春の

(百六十二)千代

(百六十三)春の

(百六十四)千代

(百六十五)春の

(百六十六)千代

(百六十七)春の

(百六十八)千代

(百六十九)春の

(百七十)千代

(百七十一)春の

(百七十二)千代

(百七十三)春の

(百七十四)千代

(百七十五)春の

(百七十六)千代

(百七十七)春の

(百七十八)千代

(百七十九)春の

(百八十)千代

(百八十一)春の

(百八十二)千代

(百八十三)春の

(百八十四)千代

(百八十五)春の

(百八十六)千代

(百八十七)春の

(百八十八)千代

(百八十九)春の

(百九十)千代

(百九十一)春の

(百九十二)千代

(百九十三)春の

(百九十四)千代

(百九十五)春の

(百九十六)千代

(百九十七)春の

(百九十八)千代

(百九十九)春の

(二百)千代

(二百一)春の

(二百二)千代

(二百三)春の

(二百四)千代

(二百五)春の

(二百六)千代

(二百七)春の

(二百八)千代

(二百九)春の

(二百十)千代

(二百十一)春の

(二百十二)千代

(二百十三)春の

(二百十四)千代

(二百十五)春の

(二百十六)千代

(二百十七)春の

(二百十八)千代

(二百十九)春の

(二百二十)千代

(二百二十一)春の

(二百二十二)千代

(二百二十三)春の

(二百二十四)千代

(二百二十五)春の

(二百二十六)千代

(二百二十七)春の

(二百二十八)千代

(二百二十九)春の

(二百三十)千代

(二百三十一)春の

(二百三十二)千代

(二百三十三)春の

(二百三十四)千代

(二百三十五)春の

(二百三十六)千代

(二百三十七)春の

(二百三十八)千代

(二百三十九)春の

(二百四十)千代

(二百四十一)春の

(二百四十二)千代

(二百四十三)春の

(二百四十四)千代

(二百四十五)春の

(二百四十六)千代

(二百四十七)春の

(二百四十八)千代

(二百四十九)春の

(二百五十)千代

(二百五十一)春の

(二百五十二)千代

(二百五十三)春の

(二百五十四)千代

(二百五十五)春の

(二百五十六)千代

(二百五十七)春の

(二百五十八)千代

(二百五十九)春の

(二百六十)千代

(二百六十一)春の

(二百六十二)千代

(二百六十三)春の

(二百六十四)千代

(二百六十五)春の

(二百六十六)千代

(二百六十七)春の

(二百六十八)千代

(二百六十九)春の

(二百七十)千代

(二百七十一)春の

(二百七十二)千代

(二百七十三)春の

(二百七十四)千代

(二百七十五)春の

(二百七十六)千代

(二百七十七)春の

(二百七十八)千代

(二百七十九)春の

(二百八十)千代

(二百八十一)春の

(二百八十二)千代

(二百八十三)春の

(二百八十四)千代

(二百八十五)春の

(二百八十六)千代

(二百八十七)春の

(二百八十八)千代

(二百八十九)春の

(二百九十)千代

(二百九十一)春の

(二百九十二)千代

(二百九十三)春の

(二百九十四)千代

(二百九十五)春の

(二百九十六)千代

(二百九十七)春の

(二百九十八)千代

(二百九十九)春の

(三百)千代

(三百一)春の

(三百二)千代

(三百三)春の

(三百四)千代

(三百五)春の

(三百六)千代

(三百七)春の

(三百八)千代

(三百九)春の

(三百十)千代

(三百十一)春の

(三百十二)千代

(三百十三)春の

(三百十四)千代

(三百十五)春の

(三百十六)千代

(三百十七)春の

(三百十八)千代

(三百十九)春の

(三百二十)千代

(三百二十一)春の

(三百二十二)千代

(三百二十三)春の

(三百二十四)千代

(三百二十五)春の

(三百二十六)千代

(三百二十七)春の

(三百二十八)千代

(三百二十九)春の

(三百三十)千代

(三百三十一)春の

(三百三十二)千代

(三百三十三)春の

(三百三十四)千代

(三百三十五)春の

(三百三十六)千代

(三百三十七)春の

(三百三十八)千代

(三百三十九)春の

(三百四十)千代

(三百四十一)春の

(三百四十二)千代

(三百四十三)春の

(三百四十四)千代

(三百四十五)春の

(三百四十六)千代

(三百四十七)春の

(三百四十八)千代

(三百四十九)春の

(三百五十)千代

(三百五十一)春の

(三百五十二)千代

(三百五十三)春の

(三百五十四)千代

(三百五十五)春の

(三百五十六)千代

(三百五十七)春の

(三百五十八)千代

(三百五十九)春の

(三百六十)千代

(三百六十一)春の

(三百六十二)千代

(三百六十三)春の

(三百六十四)千代

(三百六十五)春の

(三百六十六)千代

(三百六十七)春の

(三百六十八)千代

(三百六十九)春の

(三百七十)千代

(三百七十一)春の

(三百七十二)千代

(三百七十三)春の

(三百七十四)千代

(三百七十五)春の

(三百七十六)千代

(三百七十七)春の

(三百七十八)千代

(三百七十九)春の

(三百八十)千代

(三百八十一)春の

(三百八十二)千代

(三百八十三)春の

(三百八十四)千代

(三百八十五)春の

(三百八十六)千代

(三百八十七)春の

(三百八十八)千代

(三百八十九)春の

(三百九十)千代

(三百九十一)春の

(三百九十二)千代

(三百九十三)春の

(三百九十四)千代

(三百九十五)春の

(三百九十六)千代

(三百九十七)春の

(三百九十八)千代

(三百九十九)春の

(四百)千代

(四百一)春の

(四百二)千代

(四百三)春の

(四百四)千代

(四百五)春の

(四百六)千代

(四百七)春の

(四百八)千代

(四百九)春の

(四百十)千代

(四百十一)春の

(四百十二)千代

(四百十三)春の

(四百十四)千代

(四百十五)春の

(四百十六)千代

(四百十七)春の

(四百十八)千代

(四百十九)春の

(四百二十)千代

(四百二十一)春の

(四百二十二)千代

(四百二十三)春の

(四百二十四)千代

(四百二十五)春の

(四百二十六)千代

(四百二十七)春の

(四百二十八)千代

(四百二十九)春の

(四百三十)千代

(四百三十一)春の

(四百三十二)千代

(四百三十三)春の

(四百三十四)千代

(四百三十五)春の

(四百三十六)千代

(四百三十七)春の

(四百三十八)千代

(四百三十九)春の

(四百四十)千代

(四百四十一)春の

(四百四十二)千代

(四百四十三)春の

(四百四十四)千代

(四百四十五)春の

(四百四十六)千代

(四百四十七)春の

(四百四十八)千代

(四百四十九)春の

(四百五十)千代

(四百五十一)春の

(四百五十二)千代

(四百五十三)春の

(四百五十四)千代

(四百五十五)春の

(四百五十六)千代

(四百五十七)春の

(四百五十八)千代

(四百五十九)春の

(四百六十)千代

(四百六十一)春の

(四百六十二)千代

(四百六十三)春の

(四百六十四)千代

(四百六十五)春の

(四百六十六)千代

(四百六十七)春の

(四百六十八)千代

(四百六十九)春の

(四百七十)千代

(四百七十一)春の

(四百七十二)千代

(四百七十三)春の

(四百七十四)千代

(四百七十五)春の

(四百七十六)千代

(四百七十七)春の

(四百七十八)千代

(四百七十九)春の

(四百八十)千代

(四百八十一)春の

(四百八十二)千代

(四百八十三)春の

(四百八十四)千代

(四百八十五)春の

(四百八十六)千代

(四百八十七)春の

(四百八十八)千代

(四百八十九)春の

(四百九十)千代

(四百九十一)春の

(四百九十二)千代

(四百九十三)春の

(四百九十四)千代

(四百九十五)春の

(四百九十六)千代

(四百九十七)春の

(四百九十八)千代

(四百九十九)春の

(五百)千代

(五百一)春の

(五百二)千代

(五百三)春の

(五百四)千代

(五百五)春の

(五百六)千代

(五百七)春の

(五百八)千代

(五百九)春の

(五百十)千代

(五百十一)春の

(五百十二)千代

(五百十三)春の

(五百十四)千代

(五百十五)春の

(五百十六)千代

(五百十七)春の

(五百十八)千代

(五百十九)春の

(五百二十)千代

(五百二十一)春の

(五百二十二)千代

(五百二十三)春の

(五百二十四)千代

(五百二十五)春の

(五百二十六)千代

(五百二十七)春の

(五百二十八)千代

(五百二十九)春の

(五百三十)千代

(五百三十一)春の

(五百三十二)千代

(五百三十三)春の

(五百三十四)千代

(五百三十五)春の

(五百三十六)千代

(五百三十七)春の

(五百三十八)千代

(五百三十九)春の

(五百四十)千代

(五百四十一)春の

(五百四十二)千代

(五百四十三)春の

(五百四十四)千代

(五百四十五)春の

(五百四十六)千代

(五百四十七)春の

(五百四十八)千代

(五百四十九)春の

(五百五十)千代

(五百五十一)春の

(五百五十二)千代

(五百五十三)春の

(五百五十四)千代

(五百五十五)春の

(五百五十六)千代

(五百五十七)春の

(五百五十八)千代

(五百五十九)春の

(五百六十)千代

(五百六十一)春の

(五百六十二)千代

(五百六十三)春の

(五百六十四)千代

(五百六十五)春の

(五百六十六)千代

(五百六十七)春の

(五百六十八)千代

(五百六十九)春の

(五百七十)千代

(五百七十一)春の

(五百七十二)千代

(五百七十三)春の

(五百七十四)千代

(五百七十五)春の

(五百七十六)千代

(五百七十七)春の

(五百七十八)千代

(五百七十九)春の

(五百八十)千代

(五百八十一)春の

(五百八十二)千代

(五百八十三)春の

(五百八十四)千代

(五百八十五)春の

(五百八十六)千代

(五百八十七)春の

(五百八十八)千代

(五百八十九)春の

(五百九十)千代

(五百九十一)春の

(五百九十二)千代

(五百九十三)春の

(五百九十四)千代

(五百九十五)春の

(五百九十六)千代

(五百九十七)春の

(五百九十八)千代

(五百九十九)春の

(六百)千代

(六百一)春の

(六百二)千代

(六百三)春の

(六百四)千代

(六百五)春の

(六百六)千代

(六百七)春の

(六百八)千代

(六百九)春の

(六百十)千代

(六百十一)春の

(六百十二)千代

(六百十三)春の

(六百十四)千代

(六百十五)春の

(六百十六)千代

(六百十七)春の

(六百十八)千代

(六百十九)春の

(六百二十)千代

(六百二十一)春の

(六百二十二)千代

(六百二十三)春の

(六百二十四)千代

(六百二十五)春の

(六百二十六)千代

(六百二十七)春の

(六百二十八)千代

(六百二十九)春の

(六百三十)千代

(六百三十一)春の

(六百三十二)千代

(六百三十三)春の

(六百三十四)千代

(六百三十五)春の

(六百三十六)千代

(六百三十七)春の

(六百三十八)千代

(六百三十九)春の

(六百四十)千代

(六百四十一)春の

(六百四十二)千代

(六百四十三)春の

(六百四十四)千代

(六百四十五)春の

(六百四十六)千代

(六百四十七)春の

(六百四十八)千代

(六百四十九)春の

(六百五十)千代

(六百五十一)春の

(六百五十二)千代

(六百五十三)春の

(六百五十四)千代

(六百五十五)春の

(六百五十六)千代

(六百五十七)春の

(六百五十八)千代

(六百五十九)春の

(六百六十)千代

(六百六十一)春の

(六百六十二)千代

(六百六十三)春の

(六百六十四)千代

(六百六十五)春の

(六百六十六)千代

(六百六十七)春の

(六百六十八)千代

(六百六十九)春の

(六百七十)千代

(六百七十一)春の

(六百七十二)千代

(六百七十三)春の

(六百七十四)千代

(六百七十五)春の

(六百七十六)千代

(六百七十七)春の

(六百七十八)千代

(六百七十九)春の

(六百八十)千代

(六百八十一)春の

(六百八十二)千代

(六百八十三)春の

(六百八十四)千代

(六百八十五)春の

(六百八十六)千代

(六百八十七)春の

(六百八十八)千代

(六百八十九)春の

(六百九十)千代

(六百九十一)春の

(六百九十二)千代

(六百九十三)春の

(六百九十四)千代

(六百九十五)春の

(六百九十六)千代

(六百九十七)春の

(六百九十八)千代

(六百九十九)春の

(七百)千代

(七百一)春の

(七百二)千代

(七百三)春の

(七百四)千代

(七百五)春の

(七百六)千代

(七百七)春の

(七百八)千代

(七百九)春の

(七百十)千代

(七百十一)春の

(七百十二)千代

(七百十三)春の

(七百十四)千代

(七百十五)春の

(七百十六)千代

(七百十七)春の

(七百十八)千代

(七百十九)春の

(七百二十)千代

(七百二十一)春の

(七百二十二)千代

(七百二十三)春の

(七百二十四)千代

(七百二十五)春の

(七百二十六)千代

(七百二十七)春の

(七百二十八)千代

(七百二十九)春の

(七百三十)千代

(七百三十一)春の

(七百三十二)千代

(七百三十三)春の

(七百三十四)千代

(七百三十五)春の

(七百三十六)千代

(七百三十七)春の

(七百三十八)千代

(七百三十九)春の

(七百四十)千代

(七百四十一)春の

(七百四十二)千代

(七百四十三)春の

(七百四十四)千代

(七百四十五)春の

(七百四十六)千代

(七百四十七)春の

(七百四十八)千代

(七百四十九)春の

(七百五十)千代

(七百五十一)春の

(七百五十二)千代

(七百五十三)春の

(七百五十四)千代

(七百五十五)春の

(七百五十六)千代

(七百五十七)春の

(七百五十八)千代

(七百五十九)春の

(七百六十)千代

(七百六十一)春の

(七百六十二)千代

(七百六十三)春の

(七百六十四)千代

(七百六十五)春の

(七百六十六)千代

(七百六十七)春の

(七百六十八)千代

(七百六十九)春の

(七百七十)千代

(七百七十一)春の

(七百七十二)千代

(七百七十三)春の

(七百七十四)千代

(七百七十五)春の

(七百七十六)千代

(七百七十七)春の

(七百七十八)千代

(七百七十九)春の

(七百八十)千代

(七百八十一)春の

(七百八十二)千代

(七百八十三)春の

(七百八十四)千代

(七百八十五)春の

(七百八十六)千代

(七百八十七)春の

(七百八十八)千代

(七百八十九)春の

(七百九十)千代

(七百九十一)春の

(七百九十二)千代

(七百九十三)春の

(七百九十四)千代

(七百九十五)春の

(七百九十六)千代

(七百九十七)春の

(七百九十八)千代

(七百九十九)春の

(八百)千代

(八百一)春の

(八百二)千代

(八百三)春の

(八百四)千代

(八百五)春の

(八百六)千代

(八百七)春の

(八百八)千代

(八百九)春の

(八百十)千代

(八百十一)春の

(八百十二)千代

(八百十三)春の

(八百十四)千代

(八百十五)春の

(八百十六)千代

(八百十七)春の

(八百十八)千代

(八百十九)春の

(八百二十)千代

(八百二十一)春の

(八百二十二)千代

(八百二十三)春の

(八百二十四)千代

(八百二十五)春の

(八百二十六)千代

(八百二十七)春の

(八百二十八)千代

(八百二十九)春の

(八百三十)千代

(八百三十一)春の

(八百三十二)千代

(八百三十三)春の

(八百三十四)千代

(八百三十五)春の

(八百三十六)千代

(八百三十七)春の

(八百三十八)千代

(八百三十九)春の

(八百四十)千代

(八百四十一)春の

(八百四十二)千代

(八百四十三)春の

(八百四十四)千代

(八百四十五)春の

(八百四十六)千代

(八百四十七)春の

(八百四十八)千代

(八百四十九)春の

(八百五十)千代

(八百五十一)春の

(八百五十二)千代

(八百五十三)春の

(八百五十四)千代

(八百五十五)春の

(八百五十六)千代

(八百五十七)春の

(八百五十八)千代

(八百五十九)春の

(八百六十)千代

(八百六十一)春の

(八百六十二)千代

(八百六十三)春の

(八百六十四)千代

(八百六十五)春の

(八百六十六)千代

(八百六十七)春の

(八百六十八)千代

(八百六十九)春の

(八百七十)千代

(八百七十一)春の

(八百七十二)千代

(八百七十三)春の

(八百七十四)千代

(八百七十五)春の

(八百七十六)千代

(八百七十七)春の

(八百七十八)千代

(八百七十九)春の

(八百八十)千代

(八百八十一)春の

(八百八十二)千代

(八百八十三)春の

(八百八十四)千代

(八百八十五)春の

(八百八十六)千代

(八百八十七)春の

(八百八十八)千代

(八百八十九)春の

(八百九十)千代

(八百九十一)春の

(八百九十二)千代

(八百九十三)春の

(八百九十四)千代

(八百九十五)春の

(八百九十六)千代

(八百九十七)春の

(八百九十八)千代

(八百九十九)春の

(九百)千代

(九百一)春の

(九百二)千代

(九百三)春の

(九百四)千代

(九百五)春の

(九百六)千代

(九百七)春の

(九百八)千代

(九百九)春の

(九百十)千代

(九百十一)春の

(九百十二)千代

(九百十三)春の

(九百十四)千代

(九百十五)春の

(九百十六)千代

(九百十七)春の

(九百十八)千代

(九百十九)春の

(九百二十)千代

(九百二十一)春の

(九百二十二)千代

(九百二十三)春の

(九百二十四)千代

(九百二十五)春の

(九百二十六)千代

(九百二十七)春の

(九百二十八)千代

(九百二十九)春の

(九百三十)千代

(九百三十一)春の

(九百三十二)千代

(九百三十三)春の

(九百三十四)千代

(九百三十五)春の

(九百三十六)千代

(九百三十七)春の

(九百三十八)千代

(九百三十九)春の

(九百四十)千代

(九百四十一)春の

(九百四十二)千代

(九百四十三)春の

(九百四十四)千代

(九百四十五)春の

(九百四十六)千代

(九百四十七)春の

(九百四十八)千代

(九百四十九)春の

(九百五十)千代

(九百五十一)春の

(九百五十二)千代

(九百五十三)春の

(九百五十四)千代

(九百五十五)春の

(九百五十六)千代

(九百五十七)春の

(九百五十八)千代

(九百五十九)春の

(九百六十)千代

(九百六十一)春の

(九百六十二)千代

(九百六十三)春の

(九百六十四)千代

(九百六十五)春の

(九百六十六)千代

(九百六十七)春の

(九百六十八)千代

(九百六十九)春の

(九百七十)千代

(九百七十一)春の

(九百七十二)千代

(九百七十三)春の

(九百七十四)千代

(九百七十五)春の

(九百七十六)千代

(九百七十七)春の

(九百七十八)千代

(九百七十九)春の

(九百八十)千代

(九百八十一)春の

(九百八十二)千代

(九百八十三)春の

(九百八十四)千代

(九百八十五)春の

(九百八十六)千代

(九百八十七)春の

(九百八十八)千代

(九百八十九)春の

(九百九十)千代

(九百九十一)春の

(九百九十二)千代

(九百九十三)春の

(九百九十四)千代

(九百九十五)春の

(九百九十六)千代

(九百九十七)春の

(九百九十八)千代

(九百九十九)春の

(千百)千代

(千百一)春の

(千百二)千代

(千百三)春の

(千百四)千代

(千百五)春の

(千百六)千代

(千百七)春の

(千百八)千代

(千百九)春の

(千百十)千代

(千百十一)春の

(千百十二)千代

(千百十三)春の

(千百十四)千代

(千百十五)春の

(千百十六)千代

(千百十七)春の

(千百十八)千代

(千百十九)春の

(千百二十)千代

(千百二十一)春の

(千百二十二)千代

(千百二十三)春の

(千百二十四)千代

(千百二十五)春の

(千百二十六)千代

(千百二十七)春の

(千百二十八)千代

(千百二十九)春の

(千百三十)千代

(千百三十一)春の

(千百三十二)千代

(千百三十三)春の

(千百三十四)千代

(千百三十五)春の

(千百三十六)千代

(千百三十七)春の

(千百三十八)千代

(千百三十九)春の

(千百四十)千代

(千百四十一)春の

(千百四十二)千代

(千百四十三)春の

(千百四十四)千代

(千百四十五)春の

(千百四十六)千代

(千百四十七)春の

(千百四十八)千代

(千百四十九)春の

(千百五十)千代

(千百五十一)春の

(千百五十二)千代

(千百五十三)春の

(千百五十四)千代

(千百五十五)春の

(千百五十六)千代

(千百五十七)春の

(千百五十八)千代

(千百五十九)春の

(千百六十)千代

(千百六十一)春の

(千百六十二)千代

(千百六十三)春の

(千百六十四)千代

(千百六十五)春の

(千百六十六)千代

(千百六十七)春の

(千百六十八)千代

(千百六十九)春の

(千百七十)千代

(千百七十一)春の

(千百七十二)千代

(千百七十三)春の

(千百七十四)千代

(千百七十五)春の

(千百七十六)千代

(千百七十七)春の

(千百七十八)千代

(千百七十九)春の

(千百八十)千代

(千百八十一)春の

(千百八十二)千代

(千百八十三)春の

(千百八十四)千代

(千百八十五)春の

(千百八十六)千代

(千百八十七)春の

(千百八十八)千代

(千百八十九)春の

(千百九十)千代

(千百九十一)春の

(千百九十二)千代

(千百九十三)春の

(千百九十四)千代

(千百九十五)春の

(千百九十六)千代

(千百九十七)春の

(千百九十八)千代

(千

媒人方 教短歌

夫人者 むしへの兎角
幼ちやうれ 時より扨え
別れ めをべ さはる 拾別
六うしき 事ぬもあれ
其たとへ 大木と成る
松が枝も 若木の時ぬ
えだをたわ 仰しをたくる
ふかうさら 約束だしく
ならふ花し 好きかきうを
うはれ 仰そひうど
ちとぐへよ 先あさ好さて
撥姫 克 水とたくら

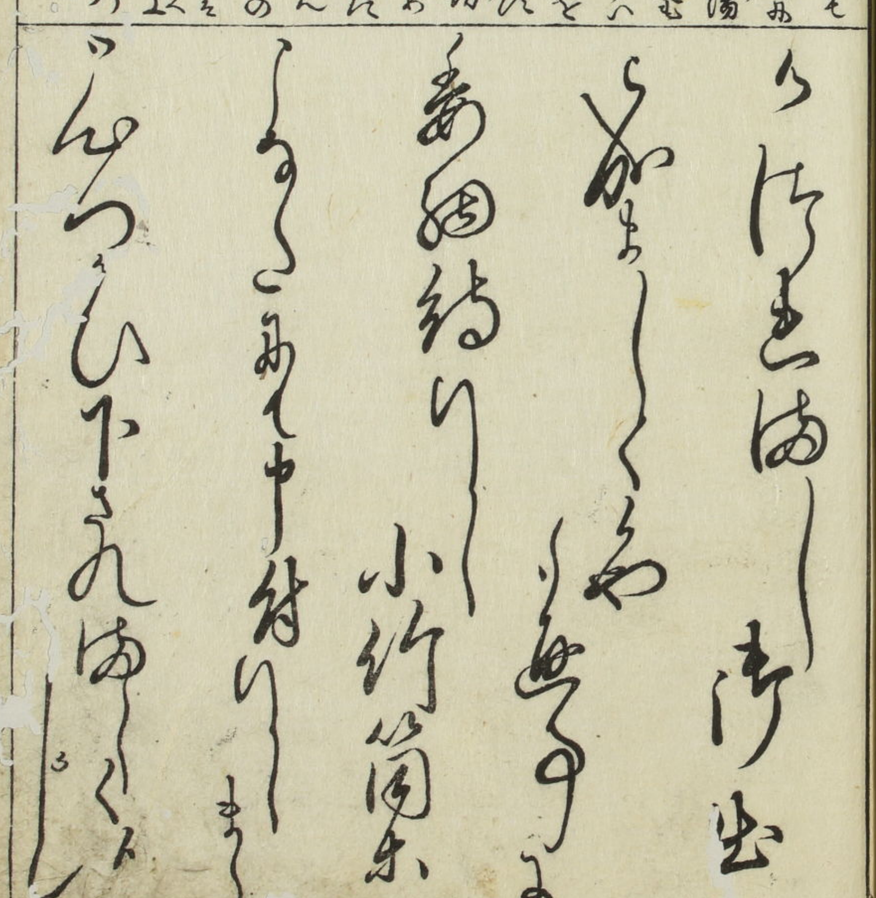
第代の め
和まくめ 中納
い月井入り い
ち 行
ち 言
ち 言
言 言
言 言
言

同とさまし膳をすゑ
礼をすゝ結おるまで
余所の客べ料理こゝろ
好ぶすき きらいか物い
結ぬまで かゝらべく
会ごろ いへえぐし
たゝかめよ 友だちよせく
指図 ゝを いるあがきせべ
贅かくち 衣類そこかゝ
よごれをよ 氏よりそぐち

起居ふるまひ
氣とけて
口きゝ
ふりそゝき
年ゐの
そゞくはし
ちゝぬ者とば
えぐるき
和して
未代の
卒ぬだし
受こゝえ
かきやうに
りんゞて
すりそゝき
和ゝうに

あるくほど　戸せうじふを開たてい　あとをかりみく　出入とれり　ふるにより　せきばらする　物ぐさし　成人をふう　ちさぐらて　絵付のみち　等一と　仏ゆるべし　さて其藻の

たしなみい　物の本をも　後おがん　琴うゑ味線ゆ　碁　双六　生花茶ゆ湯　歌かるた　十かく香まぢむ　きくあらふ　連歌ていかへ　和学ゆ道　まるとそを　ようがの藝を　卑とるぶび　ちりんぐう　丈　大　切　紙　み巻　囲　ちくとめ　小ちくとまぢ　小ちくとま　結ひ　一家一そん　むひちぐ　我ちう　ちこの　者なちと　老くろ人を　舎釈して　用上年上　ちやまふを　足ぞほとろ　道とちるぐ



我儘育教短哥

母乃中の親乃古く後の
情慈悲が
ふれあうと宮
ゆまし み
城人するみ
ちとうらして 次第くに
氣をもんで 後いつゞ後く
安理いて 安理とも古くて
忍せるろ
とうり 事
さし 出口
腰を 出り
ちゝぬ来ても
ちゝるみ そを話乃
とて終ふを
とがめられくい

孤ゝ中ながらくべて
おとゝ我とりの子を
かえりみく身持なしく
育たまふなゝ

(十二) 同 (十三) 法機嫌 (十四) 緋縮緬

(一) 桃乃 (二) 節句 (三) 清一郎様

(四) 幾久 (五) 桃の (六) 祝儀

(七) 新 (八) 祝儀 (九) 祝儀

(十) 伊勢様

(十一) 祝儀 (十二) 祝儀

(十三) 祝儀 (十四) 祝儀

(十五) 祝儀 (十六) 祝儀

(十七) 祝儀 (十八) 祝儀

(十九) 祝儀 (二十) 祝儀

(二十一) 祝儀 (二十二) 祝儀

(二十三) 祝儀 (二十四) 祝儀

(二十五) 祝儀 (二十六) 祝儀

(二十七) 祝儀 (二十八) 祝儀

(二十九) 祝儀 (三十) 祝儀

(三十一) 祝儀 (三十二) 祝儀

(三十三) 祝儀 (三十四) 祝儀

(三十五) 祝儀 (三十六) 祝儀

(三十七) 祝儀 (三十八) 祝儀

(三十九) 祝儀 (四十) 祝儀

(四十一) 祝儀 (四十二) 祝儀

(四十三) 祝儀 (四十四) 祝儀

(四十五) 祝儀 (四十六) 祝儀

(四十七) 祝儀 (四十八) 祝儀

(四十九) 祝儀 (五十) 祝儀

(五十一) 祝儀 (五十二) 祝儀

(五十三) 祝儀 (五十四) 祝儀

(五十五) 祝儀 (五十六) 祝儀

(五十七) 祝儀 (五十八) 祝儀

(五十九) 祝儀 (六十) 祝儀

(六十一) 祝儀 (六十二) 祝儀

(六十三) 祝儀 (六十四) 祝儀

(六十五) 祝儀 (六十六) 祝儀

(六十七) 祝儀 (六十八) 祝儀

(六十九) 祝儀 (七十) 祝儀

(七十一) 祝儀 (七十二) 祝儀

(七十三) 祝儀 (七十四) 祝儀

(七十五) 祝儀 (七十六) 祝儀

(七十七) 祝儀 (七十八) 祝儀

(七十九) 祝儀 (八十) 祝儀

(八十一) 祝儀 (八十二) 祝儀

(八十三) 祝儀 (八十四) 祝儀

(八十五) 祝儀 (八十六) 祝儀

(八十七) 祝儀 (八十八) 祝儀

(八十九) 祝儀 (九十) 祝儀

(九十一) 祝儀 (九十二) 祝儀

(九十三) 祝儀 (九十四) 祝儀

(九十五) 祝儀 (九十六) 祝儀

(九十七) 祝儀 (九十八) 祝儀

(九十九) 祝儀 (百) 祝儀

(百一) 祝儀 (百二) 祝儀

(百三) 祝儀 (百四) 祝儀

(百五) 祝儀 (百六) 祝儀

(百七) 祝儀 (百八) 祝儀

(百九) 祝儀 (百十) 祝儀

(百十一) 祝儀 (百十二) 祝儀

(百十三) 祝儀 (百十四) 祝儀

(百十五) 祝儀 (百十六) 祝儀

(百十七) 祝儀 (百十八) 祝儀

(百十九) 祝儀 (百二十) 祝儀

(百二十一) 祝儀 (百二十二) 祝儀

(百二十三) 祝儀 (百二十四) 祝儀

(百二十五) 祝儀 (百二十六) 祝儀

(百二十七) 祝儀 (百二十八) 祝儀

(百二十九) 祝儀 (百三十) 祝儀

(百三十一) 祝儀 (百三十二) 祝儀

(百三十三) 祝儀 (百三十四) 祝儀

(百三十五) 祝儀 (百三十六) 祝儀

(百三十七) 祝儀 (百三十八) 祝儀

(百三十九) 祝儀 (百四十) 祝儀

(百四十一) 祝儀 (百四十二) 祝儀

(百四十三) 祝儀 (百四十四) 祝儀

(百四十五) 祝儀 (百四十六) 祝儀

(百四十七) 祝儀 (百四十八) 祝儀

(百四十九) 祝儀 (百五十) 祝儀

(百五十一) 祝儀 (百五十二) 祝儀

(百五十三) 祝儀 (百五十四) 祝儀

(百五十五) 祝儀 (百五十六) 祝儀

(百五十七) 祝儀 (百五十八) 祝儀

(百五十九) 祝儀 (百六十) 祝儀

(百六十一) 祝儀 (百六十二) 祝儀

(百六十三) 祝儀 (百六十四) 祝儀

(百六十五) 祝儀 (百六十六) 祝儀

(百六十七) 祝儀 (百六十八) 祝儀

(百六十九) 祝儀 (百七十) 祝儀

(百七十一) 祝儀 (百七十二) 祝儀

(百七十三) 祝儀 (百七十四) 祝儀

(百七十五) 祝儀 (百七十六) 祝儀

(百七十七) 祝儀 (百七十八) 祝儀

(百七十九) 祝儀 (百八十) 祝儀

(百八十一) 祝儀 (百八十二) 祝儀

(百八十三) 祝儀 (百八十四) 祝儀

(百八十五) 祝儀 (百八十六) 祝儀

(百八十七) 祝儀 (百八十八) 祝儀

(百八十九) 祝儀 (百九十) 祝儀

(百九十一) 祝儀 (百九十二) 祝儀

(百九十三) 祝儀 (百九十四) 祝儀

(百九十五) 祝儀 (百九十六) 祝儀

(百九十七) 祝儀 (百九十八) 祝儀

(百九十九) 祝儀 (二百) 祝儀

(二百一) 祝儀 (二百二) 祝儀

(二百三) 祝儀 (二百四) 祝儀

(二百五) 祝儀 (二百六) 祝儀

(二百七) 祝儀 (二百八) 祝儀

(二百九) 祝儀 (二百十) 祝儀

(二百十一) 祝儀 (二百十二) 祝儀

(二百十三) 祝儀 (二百十四) 祝儀

(二百十五) 祝儀 (二百十六) 祝儀

(二百十七) 祝儀 (二百十八) 祝儀

(二百十九) 祝儀 (二百二十) 祝儀

(二百二十一) 祝儀 (二百二十二) 祝儀

(二百二十三) 祝儀 (二百二十四) 祝儀

(二百二十五) 祝儀 (二百二十六) 祝儀

(二百二十七) 祝儀 (二百二十八) 祝儀

(二百二十九) 祝儀 (二百三十) 祝儀

(二百三十一) 祝儀 (二百三十二) 祝儀

(二百三十三) 祝儀 (二百三十四) 祝儀

(二百三十五) 祝儀 (二百三十六) 祝儀

(二百三十七) 祝儀 (二百三十八) 祝儀

(二百三十九) 祝儀 (二百四十) 祝儀

(二百四十一) 祝儀 (二百四十二) 祝儀

(二百四十三) 祝儀 (二百四十四) 祝儀

(二百四十五) 祝儀 (二百四十六) 祝儀

(二百四十七) 祝儀 (二百四十八) 祝儀

(二百四十九) 祝儀 (二百五十) 祝儀

(二百五十一) 祝儀 (二百五十二) 祝儀

(二百五十三) 祝儀 (二百五十四) 祝儀

(二百五十五) 祝儀 (二百五十六) 祝儀

(二百五十七) 祝儀 (二百五十八) 祝儀

(二百五十九) 祝儀 (二百六十) 祝儀

(二百六十一) 祝儀 (二百六十二) 祝儀

(二百六十三) 祝儀 (二百六十四) 祝儀

(二百六十五) 祝儀 (二百六十六) 祝儀

(二百六十七) 祝儀 (二百六十八) 祝儀

(二百六十九) 祝儀 (二百七十) 祝儀

(二百七十一) 祝儀 (二百七十二) 祝儀

(二百七十三) 祝儀 (二百七十四) 祝儀

(二百七十五) 祝儀 (二百七十六) 祝儀

(二百七十七) 祝儀 (二百七十八) 祝儀

(二百七十九) 祝儀 (二百八十) 祝儀

(二百八十一) 祝儀 (二百八十二) 祝儀

(二百八十三) 祝儀 (二百八十四) 祝儀

(二百八十五) 祝儀 (二百八十六) 祝儀

(二百八十七) 祝儀 (二百八十八) 祝儀

(二百八十九) 祝儀 (二百九十) 祝儀

(二百九十一) 祝儀 (二百九十二) 祝儀

(二百九十三) 祝儀 (二百九十四) 祝儀

(二百九十五) 祝儀 (二百九十六) 祝儀

(二百九十七) 祝儀 (二百九十八) 祝儀

(二百九十九) 祝儀 (三百) 祝儀

(三百一) 祝儀 (三百二) 祝儀

(三百三) 祝儀 (三百四) 祝儀

(三百五) 祝儀 (三百六) 祝儀

(三百七) 祝儀 (三百八) 祝儀

(三百九) 祝儀 (三百十) 祝儀

(三百十一) 祝儀 (三百十二) 祝儀

(三百十三) 祝儀 (三百十四) 祝儀

(三百十五) 祝儀 (三百十六) 祝儀

(三百十七) 祝儀 (三百十八) 祝儀

(三百十九) 祝儀 (三百二十) 祝儀

(三百二十一) 祝儀 (三百二十二) 祝儀

(三百二十三) 祝儀 (三百二十四) 祝儀

(三百二十五) 祝儀 (三百二十六) 祝儀

(三百二十七) 祝儀 (三百二十八) 祝儀

(三百二十九) 祝儀 (三百三十) 祝儀

(三百三十一) 祝儀 (三百三十二) 祝儀

(三百三十三) 祝儀 (三百三十四) 祝儀

(三百三十五) 祝儀 (三百三十六) 祝儀

(三百三十七) 祝儀 (三百三十八) 祝儀

(三百三十九) 祝儀 (三百四十) 祝儀

(三百四十一) 祝儀 (三百四十二) 祝儀

(三百四十三) 祝儀 (三百四十四) 祝儀

(三百四十五) 祝儀 (三百四十六) 祝儀

(三百四十七) 祝儀 (三百四十八) 祝儀

(三百四十九) 祝儀 (三百五十) 祝儀

(三百五十一) 祝儀 (三百五十二) 祝儀

(三百五十三) 祝儀 (三百五十四) 祝儀

(三百五十五) 祝儀 (三百五十六) 祝儀

(三百五十七) 祝儀 (三百五十八) 祝儀

(三百五十九) 祝儀 (三百六十) 祝儀

(三百六十一) 祝儀 (三百六十二) 祝儀

(三百六十三) 祝儀 (三百六十四) 祝儀

(三百六十五) 祝儀 (三百六十六) 祝儀

(三百六十七) 祝儀 (三百六十八) 祝儀

(三百六十九) 祝儀 (三百七十) 祝儀

(三百七十一) 祝儀 (三百七十二) 祝儀

(三百七十三) 祝儀 (三百七十四) 祝儀

(三百七十五) 祝儀 (三百七十六) 祝儀

(三百七十七) 祝儀 (三百七十八) 祝儀

(三百七十九) 祝儀 (三百八十) 祝儀

(三百八十一) 祝儀 (三百八十二) 祝儀

(三百八十三) 祝儀 (三百八十四) 祝儀

(三百八十五) 祝儀 (三百八十六) 祝儀

(三百八十七) 祝儀 (三百八十八) 祝儀

(三百八十九) 祝儀 (三百九十) 祝儀

(三百九十一) 祝儀 (三百九十二) 祝儀

(三百九十三) 祝儀 (三百九十四) 祝儀

(三百九十五) 祝儀 (三百九十六) 祝儀

(三百九十七) 祝儀 (三百九十八) 祝儀

(三百九十九) 祝儀 (四百) 祝儀

(四百一) 祝儀 (四百二) 祝儀

(四百三) 祝儀 (四百四) 祝儀

(四百五) 祝儀 (四百六) 祝儀

(四百七) 祝儀 (四百八) 祝儀

(四百九) 祝儀 (四百十) 祝儀

(四百十一) 祝儀 (四百十二) 祝儀

(四百十三) 祝儀 (四百十四) 祝儀

(四百十五) 祝儀 (四百十六) 祝儀

(四百十七) 祝儀 (四百十八) 祝儀

(四百十九) 祝儀 (四百二十) 祝儀

(四百二十一) 祝儀 (四百二十二) 祝儀

(四百二十三) 祝儀 (四百二十四) 祝儀

(四百二十五) 祝儀 (四百二十六) 祝儀

(四百二十七) 祝儀 (四百二十八) 祝儀

(四百二十九) 祝儀 (四百三十) 祝儀

(四百三十一) 祝儀 (四百三十二) 祝儀

(四百三十三) 祝儀 (四百三十四) 祝儀

(四百三十五) 祝儀 (四百三十六) 祝儀

(四百三十七) 祝儀 (四百三十八) 祝儀

(四百三十九) 祝儀 (四百四十) 祝儀

(四百四十一) 祝儀 (四百四十二) 祝儀

(四百四十三) 祝儀 (四百四十四) 祝儀

(四百四十五) 祝儀 (四百四十六) 祝儀

(四百四十七) 祝儀 (四百四十八) 祝儀

(四百四十九) 祝儀 (四百五十) 祝儀

(四百五十一) 祝儀 (四百五十二) 祝儀

(四百五十三) 祝儀 (四百五十四) 祝儀

(四百五十五) 祝儀 (四百五十六) 祝儀

(四百五十七) 祝儀 (四百五十八) 祝儀

(四百五十九) 祝儀 (四百六十) 祝儀

(四百六十一) 祝儀 (四百六十二) 祝儀

(四百六十三) 祝儀 (四百六十四) 祝儀

(四百六十五) 祝儀 (四百六十六) 祝儀

(四百六十七) 祝儀 (四百六十八) 祝儀

(四百六十九) 祝儀 (四百七十) 祝儀

(四百七十一) 祝儀 (四百七十二) 祝儀

(四百七十三) 祝儀 (四百七十四) 祝儀

(四百七十五) 祝儀 (四百七十六) 祝儀

(四百七十七) 祝儀 (四百七十八) 祝儀

(四百七十九) 祝儀 (四百八十) 祝儀

(四百八十一) 祝儀 (四百八十二) 祝儀

(四百八十三) 祝儀 (四百八十四) 祝儀

(四百八十五) 祝儀 (四百八十六) 祝儀

(四百八十七) 祝儀 (四百八十八) 祝儀

(四百八十九) 祝儀 (四百九十) 祝儀

(四百九十一) 祝儀 (四百九十二) 祝儀

(四百九十三) 祝儀 (四百九十四) 祝儀

(四百九十五) 祝儀 (四百九十六) 祝儀

(四百九十七) 祝儀 (四百九十八) 祝儀

(四百九十九) 祝儀 (五百) 祝儀

(五百一) 祝儀 (五百二) 祝儀

(五百三) 祝儀 (五百四) 祝儀

(五百五) 祝儀 (五百六) 祝儀

(五百七) 祝儀 (五百八) 祝儀

(五百九) 祝儀 (五百十) 祝儀

(五百十一) 祝儀 (五百十二) 祝儀

(五百十三) 祝儀 (五百十四) 祝儀

(五百十五) 祝儀 (五百十六) 祝儀

(五百十七) 祝儀 (五百十八) 祝儀

(五百十九) 祝儀 (五百二十) 祝儀

(五百二十一) 祝儀 (五百二十二) 祝儀

(五百二十三) 祝儀 (五百二十四) 祝儀

(五百二十五) 祝儀 (五百二十六) 祝儀

(五百二十七) 祝儀 (五百二十八) 祝儀

(五百二十九) 祝儀 (五百三十) 祝儀

(五百三十一) 祝儀 (五百三十二) 祝儀

(五百三十三) 祝儀 (五百三十四) 祝儀

(五百三十五) 祝儀 (五百三十六) 祝儀

(五百三十七) 祝儀 (五百三十八) 祝儀

(五百三十九) 祝儀 (五百四十) 祝儀

(五百四十一) 祝儀 (五百四十二) 祝儀

(五百四十三) 祝儀 (五百四十四) 祝儀

(五百四十五) 祝儀 (五百四十六) 祝儀

(五百四十七) 祝儀 (五百四十八) 祝儀

(五百四十九) 祝儀 (五百五十) 祝儀

(五百五十一) 祝儀 (五百五十二) 祝儀

(五百五十三) 祝儀 (五百五十四) 祝儀

(五百五十五) 祝儀 (五百五十六) 祝儀

(五百五十七) 祝儀 (五百五十八) 祝儀

(五百五十九) 祝儀 (五百六十) 祝儀

(五百六十一) 祝儀 (五百六十二) 祝儀

(五百六十三) 祝儀 (五百六十四) 祝儀

(五百六十五) 祝儀 (五百六十六) 祝儀

(五百六十七) 祝儀 (五百六十八) 祝儀

(五百六十九) 祝儀 (五百七十) 祝儀

(五百七十一) 祝儀 (五百七十二) 祝儀

(五百七十三) 祝儀 (五百七十四) 祝儀

(五百七十五) 祝儀 (五百七十六) 祝儀

(五百七十七) 祝儀 (五百七十八) 祝儀

(五百七十九) 祝儀 (五百八十) 祝儀

(五百八十一) 祝儀 (五百八十二) 祝儀

(五百八十三) 祝儀 (五百八十四) 祝儀

(五百八十五) 祝儀 (五百八十六) 祝儀

(五百八十七) 祝儀 (五百八十八) 祝儀

(五百八十九) 祝儀 (五百九十) 祝儀

(五百九十一) 祝儀 (五百九十二) 祝儀

(五百九十三) 祝儀 (五百九十四) 祝儀

(五百九十五) 祝儀 (五百九十六) 祝儀

(五百九十七) 祝儀 (五百九十八) 祝儀

(五百九十九) 祝儀 (六百) 祝儀

(六百一) 祝儀 (六百二) 祝儀

(六百三) 祝儀 (六百四) 祝儀

(六百五) 祝儀 (六百六) 祝儀

(六百七) 祝儀 (六百八) 祝儀

(六百九) 祝儀 (六百十) 祝儀

(六百十一) 祝儀 (六百十二) 祝儀

(六百十三) 祝儀 (六百十四) 祝儀

(六百十五) 祝儀 (六百十六) 祝儀

(六百十七) 祝儀 (六百十八) 祝儀

(六百十九) 祝儀 (六百二十) 祝儀

(六百二十一) 祝儀 (六百二十二) 祝儀

(六百二十三) 祝儀 (六百二十四) 祝儀

(六百二十五) 祝儀 (六百二十六) 祝儀

(六百二十七) 祝儀 (六百二十八) 祝儀

(六百二十九) 祝儀 (六百三十) 祝儀

(六百三十一) 祝儀 (六百三十二) 祝儀

(六百三十三) 祝儀 (六百三十四) 祝儀

(六百三十五) 祝儀 (六百三十六) 祝儀

(六百三十七) 祝儀 (六百三十八) 祝儀

(六百三十九) 祝儀 (六百四十) 祝儀

(六百四十一) 祝儀 (六百四十二) 祝儀

(六百四十三) 祝儀 (六百四十四) 祝儀

(六百四十五) 祝儀 (六百四十六) 祝儀

(六百四十七) 祝儀 (六百四十八) 祝儀

(六百四十九) 祝儀 (六百五十) 祝儀

(六百五十一) 祝儀 (六百五十二) 祝儀

(六百五十三) 祝儀 (六百五十四) 祝儀

(六百五十五) 祝儀 (六百五十六) 祝儀

(六百五十七) 祝儀 (六百五十八) 祝儀

(六百五十九) 祝儀 (六百六十) 祝儀

(六百六十一) 祝儀 (六百六十二) 祝儀

(六百六十三) 祝儀 (六百六十四) 祝儀

(六百六十五) 祝儀 (六百六十六) 祝儀

(六百六十七) 祝儀 (六百六十八) 祝儀

(六百六十九) 祝儀 (六百七十) 祝儀

(六百七十一) 祝儀 (六百七十二) 祝儀

(六百七十三) 祝儀 (六百七十四) 祝儀

(六百七十五) 祝儀 (六百七十六) 祝儀

(六百七十七) 祝儀 (六百七十八) 祝儀

(六百七十九) 祝儀 (六百八十) 祝儀

(六百八十一) 祝儀 (六百八十二) 祝儀

(六百八十三) 祝儀 (六百八十四) 祝儀

(六百八十五) 祝儀 (六百八十六) 祝儀

(六百八十七) 祝儀 (六百八十八) 祝儀

(六百八十九) 祝儀 (六百九十) 祝儀

(六百九十一) 祝儀 (六百九十二) 祝儀

(六百九十三) 祝儀 (六百九十四) 祝儀

(六百九十五) 祝儀 (六百九十六) 祝儀

(六百九十七) 祝儀 (六百九十八) 祝儀

(六百九十九) 祝儀 (七百) 祝儀

(七百一) 祝儀 (七百二) 祝儀

(七百三) 祝儀 (七百四) 祝儀

(七百五) 祝儀 (七百六) 祝儀

(七百七) 祝儀 (七百八) 祝儀

(七百九) 祝儀 (七百十) 祝儀

(七百十一) 祝儀 (七百十二) 祝儀

(七百十三) 祝儀 (七百十四) 祝儀

(七百十五) 祝儀 (七百十六) 祝儀

(七百十七) 祝儀 (七百十八) 祝儀

(七百十九) 祝儀 (七百二十) 祝儀

(七百二十一) 祝儀 (七百二十二) 祝儀

(七百二十三) 祝儀 (七百二十四) 祝儀

(七百二十五) 祝儀 (七百二十六) 祝儀

(七百二十七) 祝儀 (七百二十八) 祝儀

(七百二十九) 祝儀 (七百三十) 祝儀

(七百三十一) 祝儀 (七百三十二) 祝儀

(七百三十三) 祝儀 (七百三十四) 祝儀

(七百三十五) 祝儀 (七百三十六) 祝儀

(七百三十七) 祝儀 (七百三十八) 祝儀

(七百三十九) 祝儀 (七百四十) 祝儀

(七百四十一) 祝儀 (七百四十二) 祝儀

(七百四十三) 祝儀 (七百四十四) 祝儀

(七百四十五) 祝儀 (七百四十六) 祝儀

(七百四十七) 祝儀 (七百四十八) 祝儀

(七百四十九) 祝儀 (七百五十) 祝儀

(七百五十一) 祝儀 (七百五十二) 祝儀

(七百五十三) 祝儀 (七百五十四) 祝儀

(七百五十五) 祝儀 (七百五十六) 祝儀

(七百五十七) 祝儀 (七百五十八) 祝儀

(七百五十九) 祝儀 (七百六十) 祝儀

(七百六十一) 祝儀 (七百六十二) 祝儀

(七百六十三) 祝儀 (七百六十四) 祝儀

(七百六十五) 祝儀 (七百六十六) 祝儀

(七百六十七) 祝儀 (七百六十八) 祝儀

(七百六十九) 祝儀 (七百七十) 祝儀

(七百七十一) 祝儀 (七百七十二) 祝儀

(七百七十三) 祝儀 (七百七十四) 祝儀

(七百七十五) 祝儀 (七百七十六) 祝儀

(七百七十七) 祝儀 (七百七十八) 祝儀

(七百七十九) 祝儀 (七百八十) 祝儀

(七百八十一) 祝儀 (七百八十二) 祝儀

(七百八十三) 祝儀 (七百八十四) 祝儀

(七百八十五) 祝儀 (七百八十六) 祝儀

(七百八十七) 祝儀 (七百八十八) 祝儀

(七百八十九) 祝儀 (七百九十) 祝儀

(七百九十一) 祝儀 (七百九十二) 祝儀

(七百九十三) 祝儀 (七百九十四) 祝儀

(七百九十五) 祝儀 (七百九十六) 祝儀

(七百九十七) 祝儀 (七百九十八) 祝儀

(七百九十九) 祝儀 (八百) 祝儀

(八百一) 祝儀 (八百二) 祝儀

(八百三) 祝儀 (八百四) 祝儀

(八百五) 祝儀 (八百六) 祝儀

(八百七) 祝儀 (八百八) 祝儀

(八百九) 祝儀 (八百十) 祝儀

(八百十一) 祝儀 (八百十二) 祝儀

(八百十三) 祝儀 (八百十四) 祝儀

(八百十五) 祝儀 (八百十六) 祝儀

(八百十七) 祝儀 (八百十八) 祝儀

(八百十九) 祝儀 (八百二十) 祝儀

(八百二十一) 祝儀 (八百二十二) 祝儀

(八百二十三) 祝儀 (八百二十四) 祝儀

(八百二十五) 祝儀 (八百二十六) 祝儀

(八百二十七) 祝儀 (八百二十八) 祝儀

(八百二十九) 祝儀 (八百三十) 祝儀

(八百三十一) 祝儀 (八百三十二) 祝儀

(八百三十三) 祝儀 (八百三十四) 祝儀

(八百三十五) 祝儀 (八百三十六) 祝儀

(八百三十七) 祝儀 (八百三十八) 祝儀

(八百三十九) 祝儀 (八百四十) 祝儀

(八百四十一) 祝儀 (八百四十二) 祝儀

(八百四十三) 祝儀 (八百四十四) 祝儀

(八百四十五) 祝儀 (八百四十六) 祝儀

(八百四十七) 祝儀 (八百四十八) 祝儀

(八百四十九) 祝儀 (八百五十) 祝儀

(八百五十一) 祝儀 (八百五十二) 祝儀

(八百五十三) 祝儀 (八百五十四) 祝儀

(八百五十五) 祝儀 (八百五十六) 祝儀

(八百五十七) 祝儀 (八百五十八) 祝儀

(八百五十九) 祝儀 (八百六十) 祝儀

(八百六十一) 祝儀 (八百六十二) 祝儀

(八百六十三) 祝儀 (八百六十四) 祝儀

(八百六十五) 祝儀 (八百六十六) 祝儀

(八百六十七) 祝儀 (八百六十八) 祝儀

(八百六十九) 祝儀 (八百七十) 祝儀

(八百七十一) 祝儀 (八百七十二) 祝儀

(八百七十三) 祝儀 (八百七十四) 祝儀

(八百七十五) 祝儀 (八百七十六) 祝儀

(八百七十七) 祝儀 (八百七十八) 祝儀

(八百七十九) 祝儀 (八百八十) 祝儀

(八百八十一) 祝儀 (八百八十二) 祝儀

(八百八十三) 祝儀 (八百八十四) 祝儀

(八百八十五) 祝儀 (八百八十六) 祝儀

(八百八十七) 祝儀 (八百八十八) 祝儀

(八百八十九) 祝儀 (八百九十) 祝儀

(八百九十一) 祝儀 (八百九十二) 祝儀

(八百九十三) 祝儀 (八百九十四) 祝儀

(八百九十五) 祝儀 (八百九十六) 祝儀

(八百九十七) 祝儀 (八百九十八) 祝儀

(八百九十九) 祝儀 (九百) 祝儀

(九百一) 祝儀 (九百二) 祝儀

(九百三) 祝儀 (九百四) 祝儀

(九百五) 祝儀 (九百六) 祝儀

(九百七) 祝儀 (九百八) 祝儀

(九百九) 祝儀 (九百十) 祝儀

(九百十一) 祝儀 (九百十二) 祝儀

(九百十三) 祝儀 (九百十四) 祝儀

(九百十五) 祝儀 (九百十六) 祝儀

(九百十七) 祝儀 (九百十八) 祝儀

(九百十九) 祝儀 (九百二十) 祝儀

(九百二十一) 祝儀 (九百二十二) 祝儀

(九百二十三) 祝儀 (九百二十四) 祝儀

(九百二十五) 祝儀 (九百二十六) 祝儀

(九百二十七) 祝儀 (九百二十八) 祝儀

(九百二十九) 祝儀 (九百三十) 祝儀

(九百三十一) 祝儀 (九百三十二) 祝儀

(九百三十三) 祝儀 (九百三十四) 祝儀

(九百三十五) 祝儀 (九百三十六) 祝儀

(九百三十七) 祝儀 (九百三十八) 祝儀

(九百三十九) 祝儀 (九百四十) 祝儀

(九百四十一) 祝儀 (九百四十二) 祝儀

(九百四十三) 祝儀 (九百四十四) 祝儀

(九百四十五) 祝儀 (九百四十六) 祝儀

(九百四十七) 祝儀 (九百四十八) 祝儀

(九百四十九) 祝儀 (九百五十) 祝儀

(九百五十一) 祝儀 (九百五十二) 祝儀

(九百五十三) 祝儀 (九百五十四) 祝儀

(九百五十五) 祝儀 (九百五十六) 祝儀

(九百五十七) 祝儀 (九百五十八) 祝儀

(九百五十九) 祝儀 (九百六十) 祝儀

(九百六十一) 祝儀 (九百六十二) 祝儀

(九百六十三) 祝儀 (九百六十四) 祝儀

(九百六十五) 祝儀 (九百六十六) 祝儀

(九百六十七) 祝儀 (九百六十八) 祝儀

(九百六十九) 祝儀 (九百七十) 祝儀

(九百七十一) 祝儀 (九百七十二) 祝儀

(九百七十三) 祝儀 (九百七十四) 祝儀

(九百七十五) 祝儀 (九百七十六) 祝儀

(九百七十七) 祝儀 (九百七十八) 祝儀

(九百七十九) 祝儀 (九百八十) 祝儀

(九百八十一) 祝儀 (九百八十二) 祝儀

(九百八十三) 祝儀 (九百八十四) 祝儀

(九百八十五) 祝儀 (九百八十六) 祝儀

(九百八十七) 祝儀 (九百八十八) 祝儀

(九百八十九) 祝儀 (九百九十) 祝儀

(九百九十一) 祝儀 (九百九十二) 祝儀

(九百九十三) 祝儀 (九百九十四) 祝儀

(九百九十五) 祝儀 (九百九十六) 祝儀

(九百九十七) 祝儀 (九百九十八) 祝儀

(九百九十九) 祝儀 (百) 祝儀

(百一) 祝儀 (百二) 祝儀

(百三) 祝儀 (百四) 祝儀

(百五) 祝儀 (百六) 祝儀

(百七) 祝儀 (百八) 祝儀

(百九) 祝儀 (百十) 祝儀

(百十一) 祝儀 (百十二) 祝儀

(百十三) 祝儀 (百十四) 祝儀

(百十五) 祝儀 (百十六) 祝儀

(百十七) 祝儀 (百十八) 祝儀

(百十九) 祝儀 (百二十) 祝儀

(百二十一) 祝儀 (百二十二) 祝儀

(百二十三) 祝儀 (百二十四) 祝儀

(百二十五) 祝儀 (百二十六) 祝儀

(百二十七) 祝儀 (百二十八) 祝儀

(百二十九) 祝儀 (百三十) 祝儀

(百三十一) 祝儀 (百三十二) 祝儀

(百三十三) 祝儀 (百三十四) 祝儀

(百三十五) 祝儀 (百三十六) 祝儀

(百三十七) 祝儀 (百三十八) 祝儀

(百三十九) 祝儀 (百四十) 祝儀

(百四十一) 祝儀 (百四十二) 祝儀

(百四十三) 祝儀 (百四十四) 祝儀

(百四十五) 祝儀 (百四十六) 祝儀

(百四十七) 祝儀 (百四十八) 祝儀

(百四十九) 祝儀 (百五十) 祝儀

(百五十一) 祝儀 (百五十二) 祝儀

(百五十三) 祝儀 (百五十四) 祝儀

(百五十五) 祝儀 (百五十六) 祝儀

(百五十七) 祝儀 (百五十八) 祝儀

(百五十九) 祝儀 (百六十) 祝儀

(百六十一) 祝儀 (百六十二) 祝儀

(百六十三) 祝儀 (百六十四) 祝儀

(百六十五) 祝儀 (百六十六) 祝儀

(百六十七) 祝儀 (百六十八) 祝儀

(百六十九) 祝儀 (百七十) 祝儀

(百七十一) 祝儀 (百七十二) 祝儀

(百七十三) 祝儀 (百七十四) 祝儀

(百七十五) 祝儀 (百七十六) 祝儀

(百七十七) 祝儀 (百七十八) 祝儀

(百七十九) 祝儀 (百八十) 祝儀

(百八十一) 祝儀 (百八十二) 祝儀

(百八十三) 祝儀 (百八十四) 祝儀

(百八十五) 祝儀 (百八十六) 祝儀

(百八十七) 祝儀 (百八十八) 祝儀

(百八十九) 祝儀 (百九十) 祝儀

(百九十一) 祝儀 (百九十二) 祝儀

(百九十三) 祝儀 (百九十四) 祝儀

(百九十五) 祝儀 (百九十六) 祝儀

(百九十七) 祝儀 (百九十八) 祝儀

(百九十九) 祝儀 (二百) 祝儀

(二百一) 祝儀 (二百二) 祝儀

(二百三) 祝儀 (二百四) 祝儀

(二百五) 祝儀 (二百六) 祝儀

(二百七) 祝儀 (二百八) 祝儀

(二百九) 祝儀 (二百十) 祝儀

(二百十一) 祝儀 (二百十二) 祝儀

(二百十三) 祝儀 (二百十四) 祝儀

(二百十五) 祝儀 (二百十六) 祝儀

(二百十七) 祝儀 (二百十八) 祝儀

(二百十九) 祝儀 (二百二十) 祝儀

(二百二十一) 祝儀 (二百二十二) 祝儀

(二百二十三) 祝儀 (二百二十四) 祝儀

(二百二十五) 祝儀 (二百二十六) 祝儀

(二百二十七) 祝儀 (二百二十八) 祝儀

(二百二十九) 祝儀 (二百三十) 祝儀

(二百三十一) 祝儀 (二百三十二) 祝儀

(二百三十三) 祝儀 (二百三十四) 祝儀

(二百三十五) 祝儀 (二百三十六) 祝儀

(二百三十七) 祝儀 (二百三十八) 祝儀

(二百三十九) 祝儀 (二百四十) 祝儀

(二百四十一) 祝儀 (二百四十二) 祝儀

(二百四十三) 祝儀 (二百四十四) 祝儀

(二百四十五) 祝儀 (二百四十六) 祝儀

(二百四十七) 祝儀 (二百四十八) 祝儀

(二百四十九) 祝儀 (二百五十) 祝儀

(二百五十一) 祝儀 (二百五十二) 祝儀

(二百五十三) 祝儀 (二百五十四) 祝儀

(二百五十五) 祝儀 (二百五十六) 祝儀

(二百五十七) 祝儀 (二百五十八) 祝儀

(二百五十九) 祝儀 (二百六十) 祝儀

(二百六十一) 祝儀 (二百六十二) 祝儀

(二百六十三) 祝儀 (二百六十四) 祝儀

(二百六十五) 祝儀 (二百六十六) 祝儀

(二百六十七) 祝儀 (二百六十八) 祝儀

(二百六十九) 祝儀 (二百七十) 祝儀

(二百七十一) 祝儀 (二百七十二) 祝儀

(二百七十三) 祝儀 (二百七十四) 祝儀

(二百七十五) 祝儀 (二百七十六) 祝儀

(二百七十七) 祝儀 (二百七十八) 祝儀

(二百七十九) 祝儀 (二百八十) 祝儀

(二百八十一) 祝儀 (二百八十二) 祝儀

(二百八十三) 祝儀 (二百八十四) 祝儀

(二百八十五) 祝儀 (二百八十六) 祝儀

(二百八十七) 祝儀 (二百八十八) 祝儀

(二百八十九) 祝儀 (二百九十) 祝儀

(二百九十一) 祝儀 (二百九十二) 祝儀

(二百九十三) 祝儀 (二百九十四) 祝儀

(二百九十五) 祝儀 (二百九十六) 祝儀

(二百九十七) 祝儀 (二百九十八) 祝儀

(二百九十九) 祝儀 (三百) 祝儀

(三百一) 祝儀 (三百二) 祝儀

(三百三) 祝儀 (三百四) 祝儀

(三百五) 祝儀 (三百六) 祝儀

(三百七) 祝儀 (三百八) 祝儀

(三百九) 祝儀 (三百十) 祝儀

(三百十一) 祝儀 (三百十二) 祝儀

(三百十三) 祝儀 (三百十四) 祝儀

(三百十五) 祝儀 (三百十六) 祝儀

(三百十七) 祝儀 (三百十八) 祝儀

(三百十九) 祝儀 (三百二十) 祝儀

(三百二十一) 祝儀 (三百二十二) 祝儀

(三百二十三) 祝儀 (三百二十四) 祝儀

(三百二十五) 祝儀 (三百二十六) 祝儀

(三百二十七) 祝儀 (三百二十八) 祝儀

(三百二十九) 祝儀 (三百三十) 祝儀

(三百三十一) 祝儀 (三百三十二) 祝儀

(三百三十三) 祝儀 (三百三十四) 祝儀

(三百三十五) 祝儀 (三百三十六) 祝儀

(三百三十七) 祝儀 (三百三十八) 祝儀

(三百三十九) 祝儀 (三百四十) 祝儀

(三百四十一) 祝儀 (三百四十二) 祝儀

(三百四十三) 祝儀 (三百四十四) 祝儀

(三百四十五) 祝儀 (三百四十六) 祝儀

(三百四十七) 祝儀 (三百四十八) 祝儀

(三百四十九) 祝儀 (三百五十) 祝儀

(三百五十一) 祝儀 (三百五十二) 祝儀

(三百五十三) 祝儀 (三百五十四) 祝儀

(三百五十五) 祝儀 (三百五十六) 祝儀

(三百五十七) 祝儀 (三百五十八) 祝儀

(三百五十九) 祝儀 (三百六十) 祝儀

(三百六十一) 祝儀 (三百六十二) 祝儀

(三百六十三) 祝儀 (三百六十四) 祝儀

(三百六十五) 祝儀 (三百六十六) 祝儀

(三百六十七) 祝儀 (三百六十八) 祝儀

(三百六十九) 祝儀 (三百七十) 祝儀

(三百七十一) 祝儀 (三百七十二) 祝儀

(三百七十三) 祝儀 (三百七十四) 祝儀

(三百七十五) 祝儀 (三百七十六) 祝儀

(三百七十七) 祝儀 (三百七十八) 祝儀

(三百七十九) 祝儀 (三百八十) 祝儀

(三百八十一) 祝儀 (三百八十二) 祝儀

(三百八十三) 祝儀 (三百八十四) 祝儀

(三百八十五) 祝儀 (三百八十六) 祝儀

(三百八十七) 祝儀 (三百八十八) 祝儀

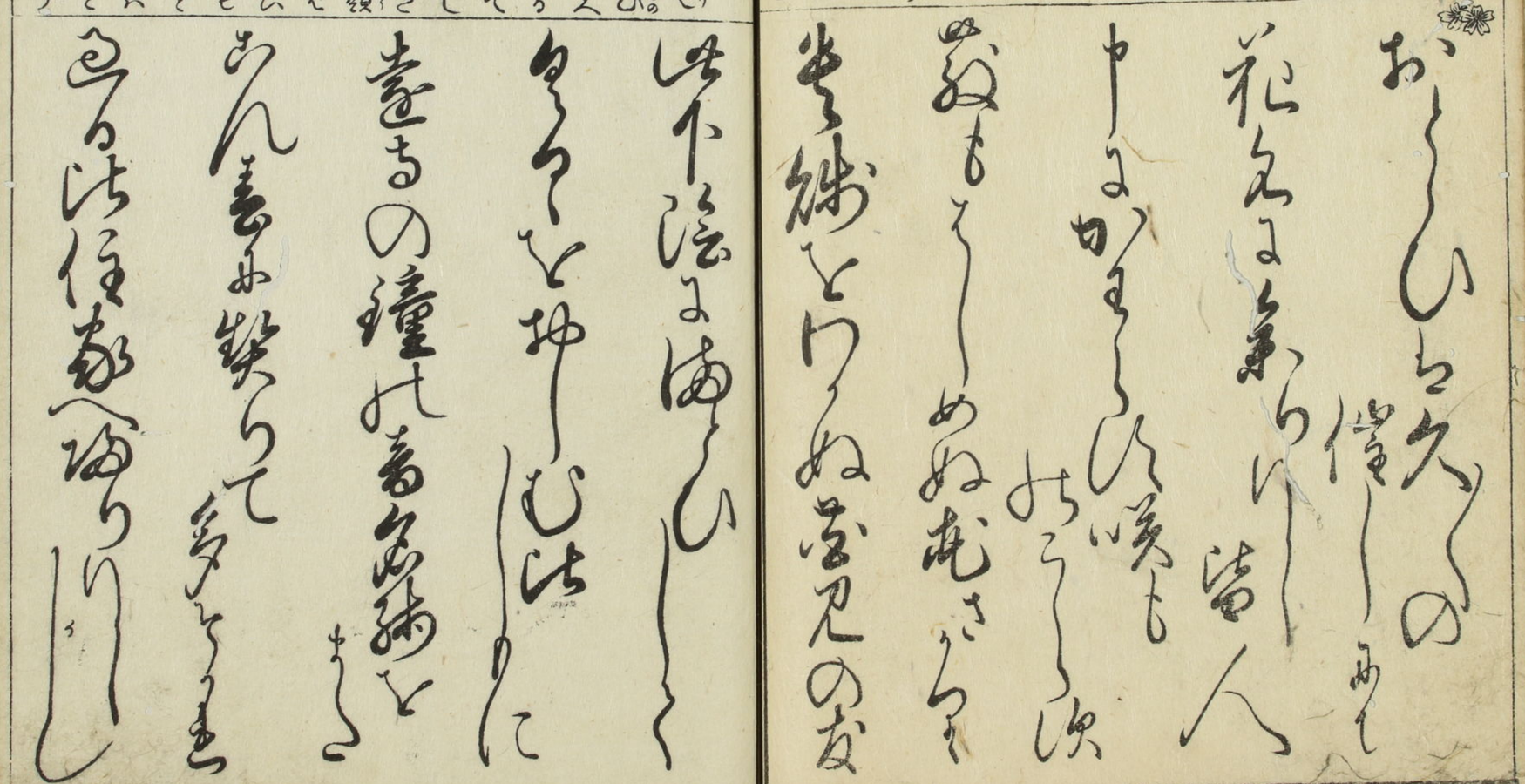
(三百八十九) 祝儀 (三百九十) 祝儀

(三百九十一) 祝儀 (三百九十二) 祝儀

(三百九

圖畫と習べき事

夫はるく女子の乃ふから
ふ事を乃ゝに平かゝて
糸の受ゝ人のゝなり先
たもあるべ去なら圖乃
名あるい所の名なゝ
かゝが紀ふてハ假名ばゝ
あ一をれば其所ゝるゝ
ゝ名べ輝九乃事に
ゝれやこ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝくゝ
ゝ坂乃実
此おゝさゝハ近ゝ乃圖事
まゝ武人の哥ゝ
ゝ乃ゝの大ゝ
ゝ乃ゝの芦乃波と



ゝ坂
此おゝさゝハ拵ゝの圖へ
かゝだゝ書ゝれハ
ゝく假名遣とゝきま
ゝゝればゝゝ
事ゝゝゝ
圖畫をゝゝ
ゝゝで町屋乃家名ま
御大名様ゝゝ御受領
御圖名を讀ゝれ
我分一生の徒ゝゝ
眉目ゝゝゝ
字と紙ゝて物乃事ゝ
ゝゝ堂讀ゝ女ゝハ
ゝくゝゝゝき
ゝゝしゝゝ考ゝ事ゝ

和歌の浦に潮満くれば
かたをなみ
芦辺をさして
鶴鳴わたる
山部赤人

大日本国畫

五畿内　五箇国
山城　山州　八郡
大和　和州　十六郡
河内　河州　十六郡
和泉　泉州　三郡
摂津　摂州　十二郡

東海道　十六箇国
伊賀　伊州　四郡
伊勢　勢州　十六郡

きりぎすの
なくや霜夜の
こころ寒
しきたりの
ひとり寝
一箭亭国
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

志摩　志州　二郡
尾張　尾州　八郡
参河　三州　八郡
遠江　遠州　十四郡
駿河　駿州　七郡
甲斐　甲州　四郡
伊豆　豆州　三郡
相模　相州　八郡
武蔵　武州　二十一郡
安房　房州　四郡
上総　総州　十一郡

下総　総の下州　十二郡
常陸　常州　十一郡

東山道　八箇國

近江　十三郡
美濃　十八郡
飛騨　四郡
信濃　十郡
上野　十四郡
下野　九郡
陸奥　五十郡
出羽　十二郡

小陸道　七箇國

若狭　三郡

越前　十二郡
加賀　四郡
能登　四郡
越中　四郡
越後　七郡
佐渡　三郡

(一) 菖蒲の
(二) 佐久の
(三) ちまき
(四) 不和
(五) 無
(六) 先
(七) 行
(八) 打
(九) 云
(十) 行

山陰道　八箇國

丹波　丹州　六郡

丹後　後々丹州　五郡

但馬　但州　八郡

因幡　因州　七郡

伯耆　伯州　六郡

出雲　雲州　十郡

石見　石州　六郡

隱岐　隱州　四郡

山陽道　八箇國

播磨　播州　十四郡

美作　作州　七郡

備前　備州　十一郡

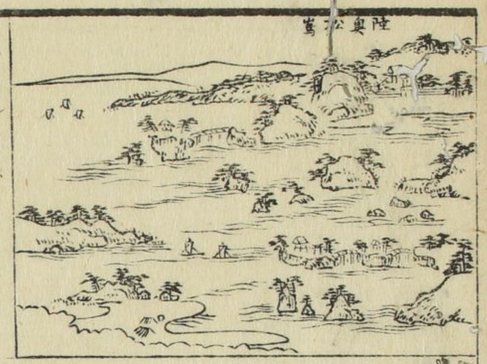
備中　中々備州　九郡

備後　後々備州　十四郡

安藝　藝州　八郡

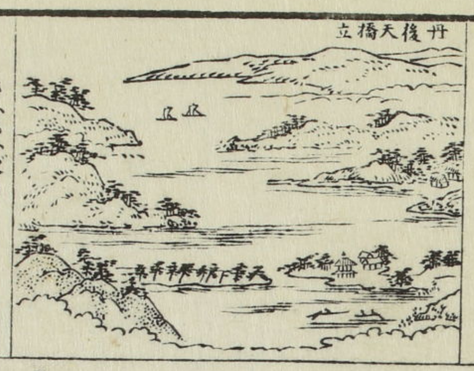
周防　防州　六郡

長門　長州　六郡



南海道　六箇国

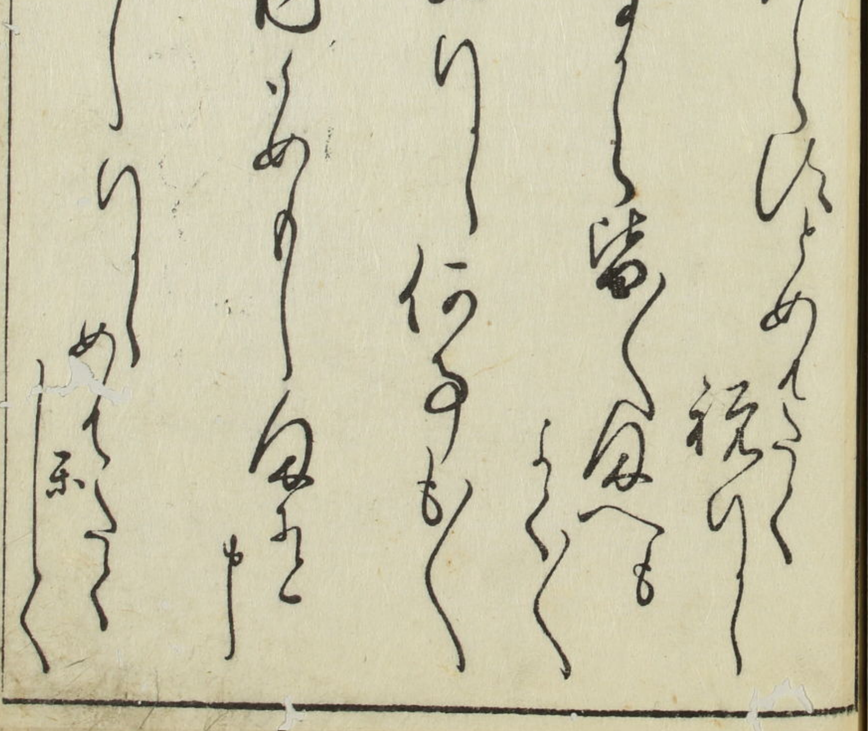
紀伊　紀州　七郡
淡路　淡州　三郡
阿波　阿州　九郡
讃岐　讃州　十八郡



伊豫　豫州　十四郡
土佐　土州　七郡

西海道　九箇国

筑前　筑州　十六郡
筑後　後州　十郡



筑前　八郡
豊後　後之前州　八郡
肥前　肥州　十一郡
紀後　後之紀州　十四郡
日向　日州　五郡
大隅　隅州　八郡
薩摩　薩州　十四郡
此九箇国をとりて九州とよむ
壱岐　壱州　二郡
対馬　対州　二郡
此二箇国と二島とよむ
以上六十六国畫終

苗氏乃文字と習

結ぶ乃紙業

女中ハ紙業ハ物やらう

なるなつそよけをとそ

初らかそ書なまハ其

苗氏によりてるるもぐ

たとハ一柳と二字そ

すむと云ハ屋なきや

六字ハかハ巻紙ハ切の

ゑ紙なとハ苗氏乃

かきて名ハかれまぐたと

ゑかそ

字ハく書たまて物業

乃遠なくてよわかべし

たとハ人の名ハ次前ゑ東

をゑを假名そ乃初ゑ

中書て名字に清りれ

ぬとれハ前初ゑ人ハを

後ぐしゑ乃遠でそ

業ハかそハ書まぐと

ゑけ結ぶ乃ゑく文字

と遠者に覚ゑ乃ゑ是ハ

て結ぶ宗祇法師といふ

連歌師の発句ハ

長閑ゑ春殿ハ乃句ゑ

ゑとと假名文字く

書ゑしと武人ゑみきゑ

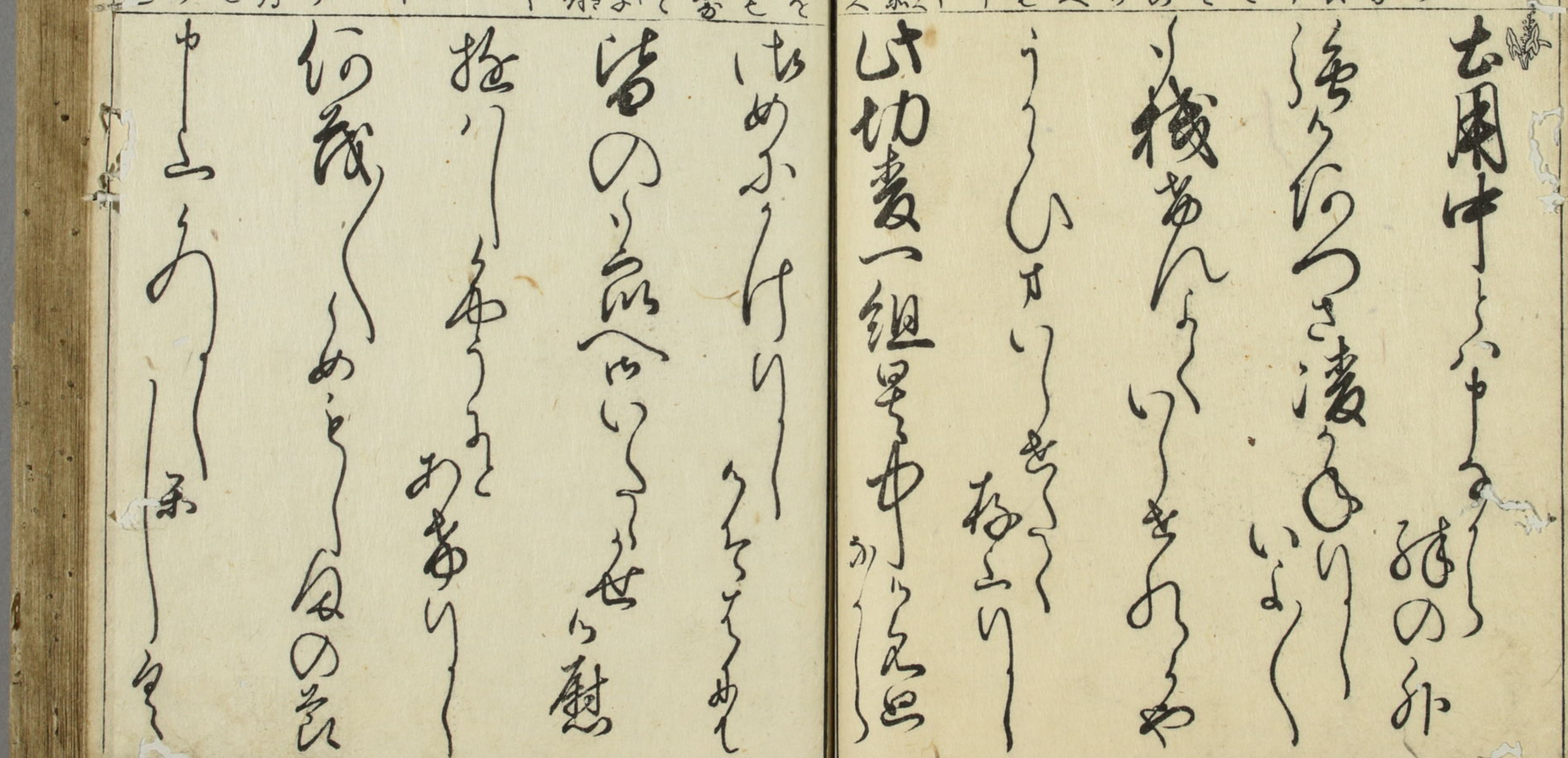
へのぐゑ乃ゑかけみそへ乃

ふゑふゑ。ゑ後て是ハむゑ

やうゑ業をいひ発句と

といて笑ゑ假名字ゑ

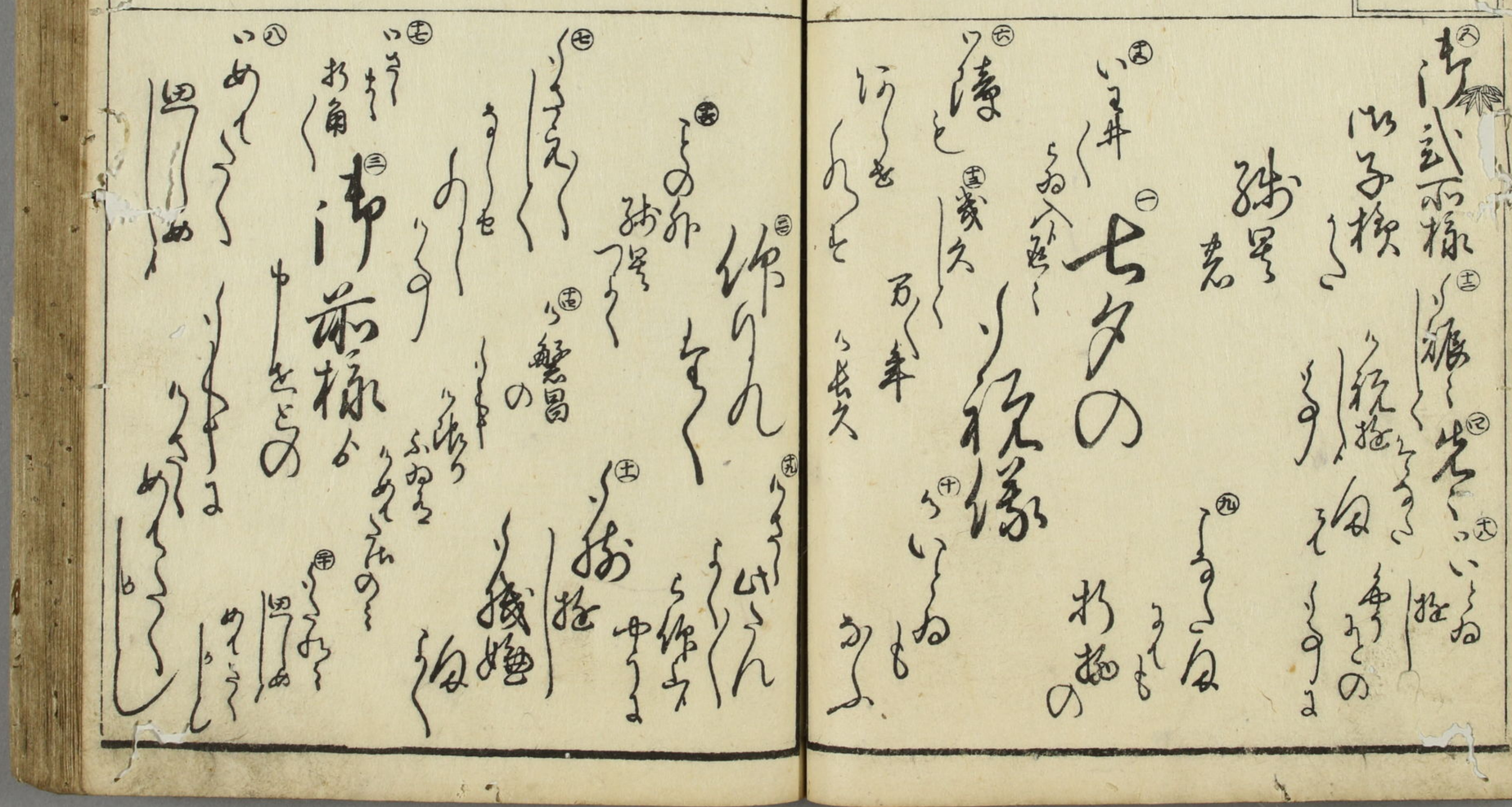
そハ乃ゑ乃遠ゑと知ハ

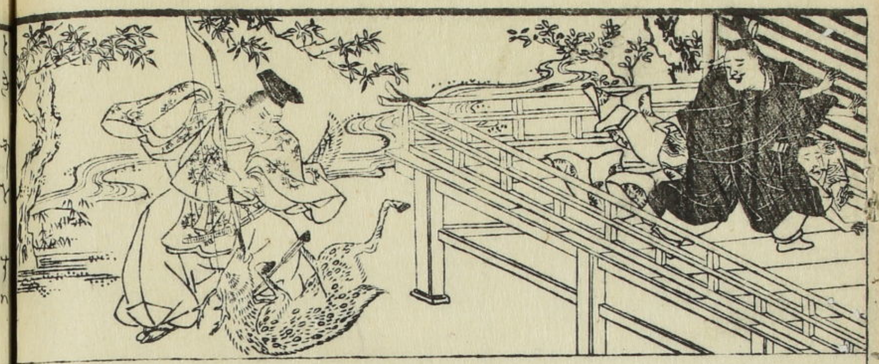


苗氏文字畫

保科　茶田　浮洲
伊達　細川　黒田
浅野　毛利　鍋島
池田　井伊　藤堂
蜂須賀　山内　有馬
佐竹　岩城　上杉
奥平　柳沢　榊原
本多　小笠原　酒井
大久保　稲葉　立花
丹羽　真田　阿部

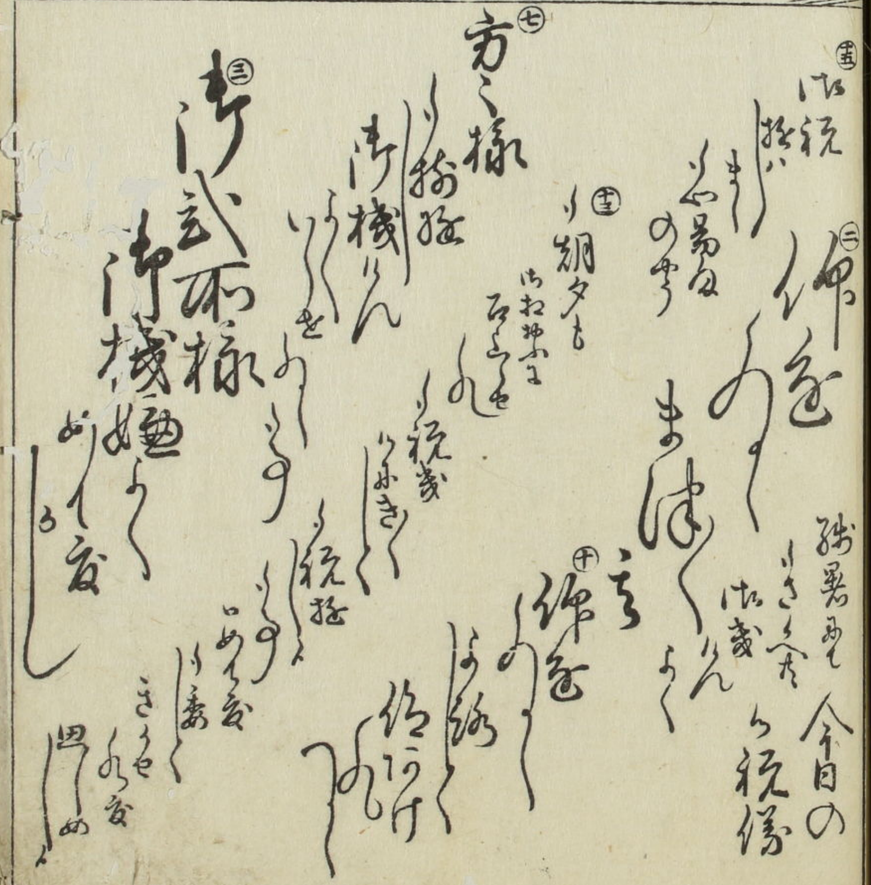
安部　戸田　秋元
南部　堀田　宗
森連川　土屋　牧野
中川　水野　土井
内藤　戸澤　安藤
松浦　相馬　石川
京極　伊達　井上
久世　服部　岡部
伊東　加藤　板倉
青山　秋田　溝口
本田　田沼　津軽
能井　永井　九鬼





石波　亟尾　諏訪
朽木　鳥居　稲垣
堀　秋月　小出
大村　桂村　木下
三浦　増山　相良
六郷　森　蒲
織田　分部　大岡
大関　市橋　内田
渡辺　久留島　天島
土方　三宅　小堀
茅倉　大田原　片桐
茅津　遠山　高木

森川　建部　山口
小糸　青木　谷
新左　一柳　柳生
遠茂　加納　松前
右ハ諸御大名様ゴとの
御苗字なるを長ク苗
氏とゝハ餘多ゝて悪い
書にくしがゝ様ゝ物
かぎて物の本とよみかい
物とゝりなる老女老人
従て聞ゝ覚え習得く
拙くゝやうに育ゝ



花咲草木は字と
書はべき人絵はべき事
夫女子は舟はべ人の業と
読み女い氏なはべてむ乃
輿に乗とてあるべやたち人
賤き身はそれ高位高官
乃御所炎みを立ちべ
屏風ぬまたの絵まくい
庭乃草木の花あるの
名みはきく久字とを
ひきまへ書ぬいはべ色
とつるべし女は眉引ちち
ろ〜かるべとを書ろべ
優みあるしく花の名ホ
久字までも覚たらんい
おくゆしきをはかりと

清少納言はその系かと
名紙みよれ衣裳なとを
美かざり化粧ととのへて
久字とあるべみかどの
綾ゐる絮い衣よりん
亀の毒なるものかるべや
世はそのみえ人のぬりえて
我字みを色といみれど
仏けく習覚たまへり

はるあてうて鶯ぬ
いる井りて行花香
一組あるの時いり川
ふるて出絵のうるもも
ふるる業と推牛りし

花乃名ぞ季くし

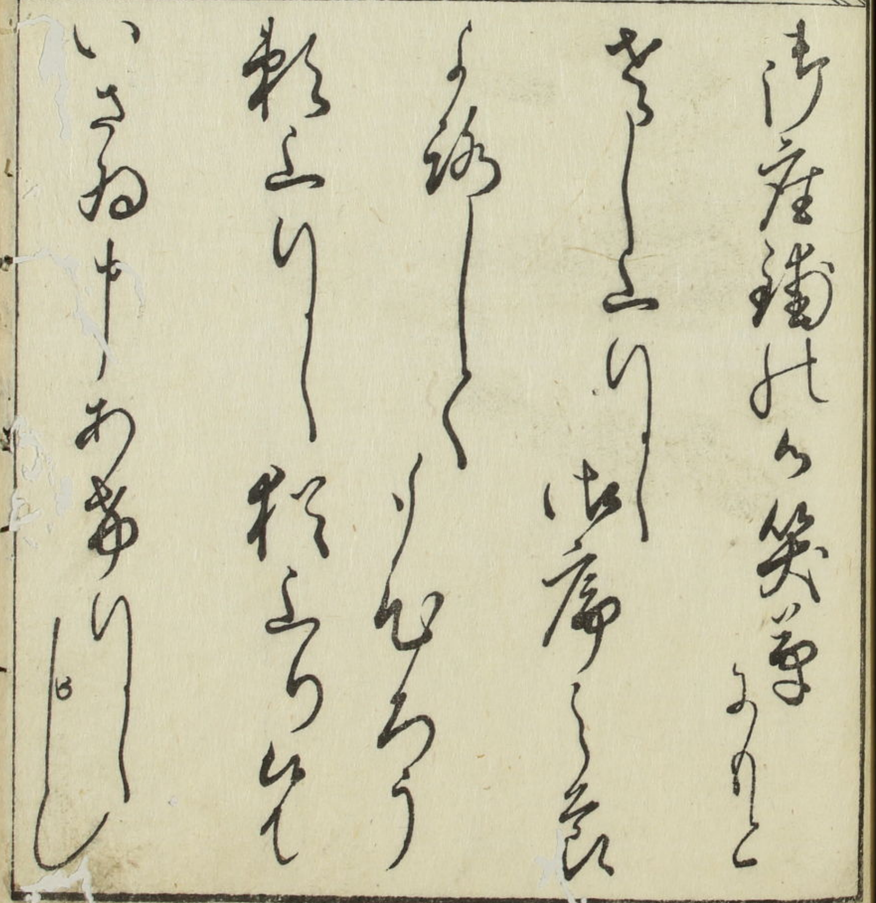
春之部

福寿草。梅。桃。梨花
金棣棠。玉蝶。木蓮花
笑靨花。海棠。躑躅
瑞香花。連翹。櫻。薊
紫花地丁。春菊。菜花
荷花笑草。蘭麹草花
白頭翁。蒲公英。木瓜花

金風花。胡蝶花。月季花
金絲桃。牡丹。杜若
薔薇。粉團花。蕙
菖蒲花。荷包牡丹。櫻草

夏之部

ぎかうしゝ　かうれん
芍薬。玉簪花。薄荷草
くまんさう　えかあよい　はなはなかう
萱草。蜀葵花。ぶふ藏
ぐんい　あやめ　せんらく　かうきと
雁緋。菖蒲。石竹。洛陽花
けいとうぐさ　きえせんくさ　いわふぎ
鶏冠花。金盞花。鳥扇
くさいちご　はのなさう　ふるぶく　ろうぶと
蛇苺。鐘草。旋花。多塊
せんとうげ　なんとうとそ　まらん
蕎秋羅。蜀羊泉。ぶふ蘭
かうぜんくさ　だんくく　あふぶき
風仙花。曇花。鶏頭根
ぜもさい　ごちえつ　えすれてる
水蒸流。戈弓尾。蓮華
ろぜんぐ　いわゆり　ゆふげか
鉄線蓮。山丹。壺盧
けーしのえる　あふなう　ゆて
罌粟花。線葵。百合
べふのえる　ゆきのあさ
紅藍花。虎耳草



秋之部

芙蓉。蠟燭麥。蕎藍
濱菊。荊。雁来紅
石蒜。桔梗。牽牛花
地楡。蘭。胡枝花
芳蒹葵。龍膽。紫苑
秋海棠。稀薄。日東草
紅綫花。狗尾草。秋薊

冬之部

素吾花。雪下紅
山茶花。水僊華
臘梅。寒梅。寒菊
寒山茶。冬牡丹
冬至梅。枇杷花
鬼箭。茶花。金剛蠶

おもて草木乃花の数ハ限もなし今ハたゝかゝ
あらぬ乃くハたゝへ春の花ゝ山吹と書て通よう
ゝく海ぢき者と結ゝく
ゝ金様堂とかく
者ハ女乃身れ上ゝハ入ぬと
ゝ人を力ゝ也なりなど
ゝ者をれど是を
何ゝゝ断ゝ書
ゝんと物識たる人ゝ
ゝ者ゝふゝ是をかゝ
物とゝ者ゝゝれ場
ゝじて合点のゆゝと
ゝ者ゝて者ゝ者
ゝ者ゝかゝるべゝ

猪の子

十二月之異名

正月　初春月　初花月　歌始月

御製

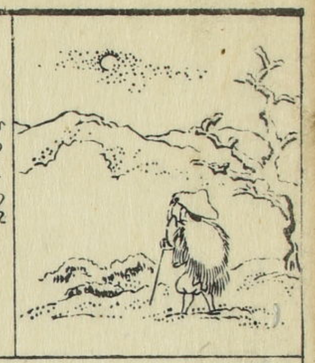
雪ハゝとゆる年かゝ立春ハ
ゝ人ゝゆれゝの月

定家

きゝもなゝ山風者ゝ
ゝ名ゝゝゝゝの月

家隆

霞ゝ初花月乃朝日新
ゝゝゝゝゝゝゝ



二月　梅見月　衣更月　小菜摘月

有家

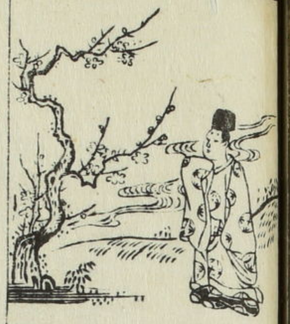
ゆふ人もなれぬ古郷の梅ぬれ
風の香を袖にうつす山の角

顕照

春ちかう成る夜ぶかし小菜摘
月まちわたる武蔵野の末

よみ人しらず

さと飛ぶ雪のきぬぎぬ
なれぬ日数もいく月やすらか



三月　花見月　桜月　春惜月

御製

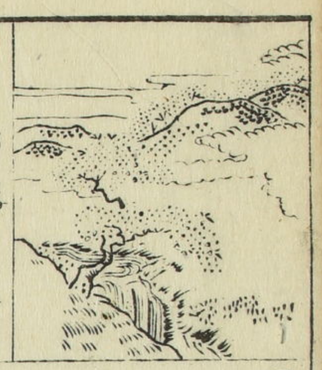
春ふかう成ぬるものを花ぬれ
なほうぐいすもおくれぬるかな

定家

なつかしき雲をうつして桜月
春くれなゐなる山の端

家隆

数かぞへぬ身とは思へどかすみ
たち行かつれ春おしむ月



空月　卯の花月　花残月　傑り羽月

長明

折しもふき合せたる山かぜに
外にまがふ月よりたるこゑ

有家

為ひさかたの天にかがやく月の
たちこめまさる夏の月

御製

春もすでに暮ぬるころ山ぶみ
たれかこの花の残る月

天月　賤深月　橋月　月不見月

定家

いとしてかぎりなきかとなりて
たれかまの月をかたりあはむ

顕照

たちこめし晴間もまたぬ雲ぬ
月をまた月といはんかぎり

家隆

旅ぬぎ立て花月の名をとめて
たれかはむかしの思ひをかん

(一) おもかげ
(二) おとのひ
(三) 野分
(四) 紙衾
(五) 紙子
(六) 清水
(七) 清水
(八) 古今
(九) 清水
(十) 古今
(十一) 清水
(十二) 清水
(十三) 清水
(十四) 清水

六月　風待月　常夏月　水無月

顕照

雲のきて麻衣とぬぎかふるや
風待月のあるじのうやまひ

定家

夏の雨は物さびしきを水無月の
月ぬきおもしめ夏はくるらん

御製

夏はひとえ秋ふる世常夏の
月ゆゑ人くるる乃賀成

七月　文披月　秋立月　女郎花月

有家

七夕乃あふぎの風をたくかれなかるるあきの月

家隆

秋乃よるの夢もふるせよ
たかくさ月のあふぎもちそう

顕照

七夕の袋のいやのたくえてや
名をあらしをとの女郎花

八月　秋風月　紅葉月　月見月

宣家

萩の葉に露吹きこぼすや
夕ぎり初し秋の夕月

長明

名にしおふ秋はすのこそ
ふるさとなる月をこそ見

有家

時雨つゝ梢の色は紅葉せ
ぬ月のみ山の秋の夕ぐれ

九月　紅葉月　小田刈月　寝覚月

後鳥羽院

竜田山まがく時雨ふる時
をみられぬ月のそでをそふん

俊頼

さみしさは秋の夕ぐれ
袖ふらさふ小田刈の月

家隆

幾度か枕の袖の寝覚月
秋ふけぬなれ数すら

十月　時雨月　初霜月　木枯月

定家

萩の花　末の露　本の雫　の後の時雨月
冬の初　ちぶとを先はし

顕昭

秋の冬の　かり果ぬる　木ゝ梢
まばらの外に　残る木もれ

長明

落葉　木を初霜月の　朝ゆふを
かりのもとゝ　しぐるゝ　ぬれ

十二月　霜降月　神楽月　雪見月

御製

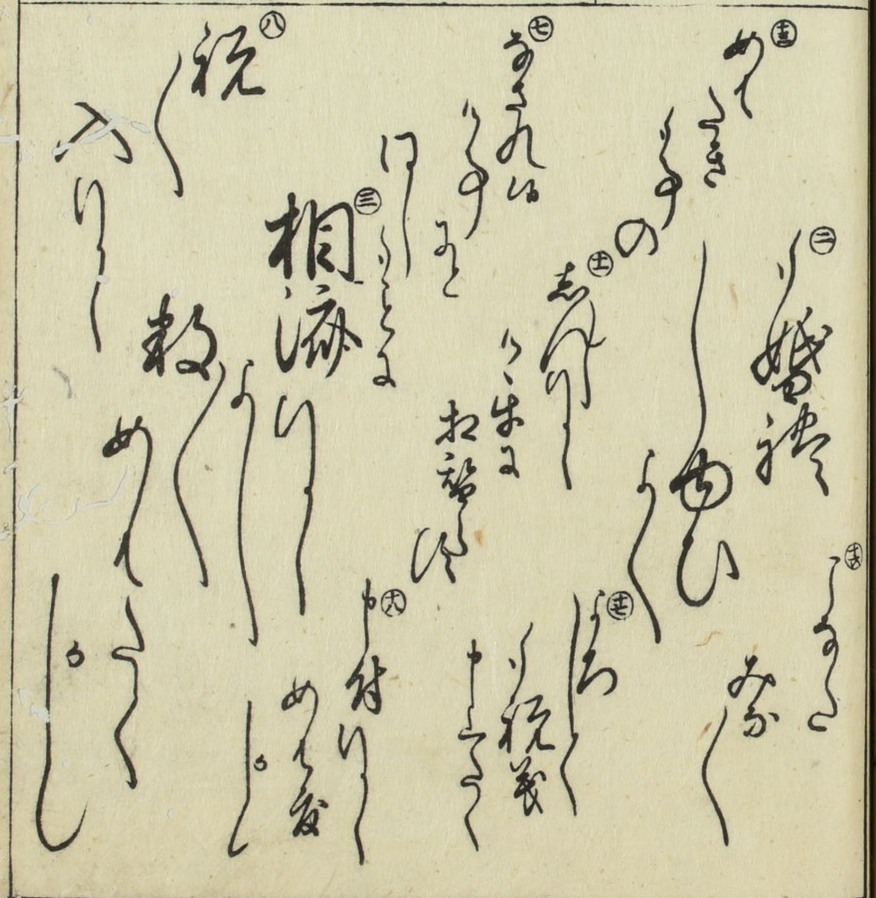
風さむき　雪降月の　空よりや
雪かと見て　ゆり初るらん

定家

ちるあれて　ものさびしき　冬の神楽月
立まゝ袖の　音そはやまし

有家

くもりつる　空さえまさる　雪見月
きゝふるを　もののちるし　かきれ



十二月

春待月　三冬月
梅初月　長明

春まつ月のいとかきの
花ぞ思ひかねもとかれぬる
梅初月のこゝろ知るく

定家

ゆきの時とそなてこそ
初そくに梅の雪は長閑さ

(一)
奥の
歳暮
(二)
年
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)
(八)
(九)
(十)
(十一)
(十二)
(十三)
(十四)
(十五)
(十六)
歳久

○相生之松同出處
由來物語之事
附松之異名

相生乃松とハ播磨乃國高砂山の麓乃濱と高砂の浦と云所ハ御鉄座在ハ高砂大明神と申するハ赤も桜津國ゑ右大明神と一躰分身の御神にて元せとゝ夫婦和合子孫繁栄寿命長久と好ハ此ハ松と御神本ゝ也ゝ此ハ松ハ右大明神の高砂明神の極たまひし松へまさ高砂乃松ハ右大明神の極たまひより相極乃松と申ス孫とゝて古今和歌集乃序文ハ高砂乃住乃江の春を相生の風ゝに芳ゝ紀の貫之ハ乃ゝ乃ゝ結ふも春乃間出度ハ延喜の御代ゝ

なきと競ふ人なりとゝや

松ハ木ゝの本ハ一すになるべ定千年ハ動とゝならて雨霜雪ハ春ハ花と変と園て松と常盤木ゝ驚て婚礼祝義ハ第一とする事ハ女ハ人と松のだくに

いやうハ幸若艱難あるとも矢と変と貞節ハ五ゝ絃を固め男姑夫父母に従ハ

ゝ

ゝ

ゝ

松の異名和歌之詞

常緑草。千代若草
翁草。久善草
初見草。延若草
豊千代草
戀草
目覚草
六昧覚草。物之草
夕見草。初之草
美美保草
雪見草
菅草
庭経草
以上 ゆゑもなき名と得くる名木とそ有きる

諸藝俳紀和歌

俳紀と云へ何来るとも
かろい仕別てよく覚る事
とい云へ初のわどい泥水ゆ
ゆてもく清る雪乃如
羽てを覚て仕覚て別を
清て甲斐なし雪も池ゆ
氷のくるやうゆすとしても
別羽い覚かるとゆ氷乃
上い雪き人を陪くとゆう
積る雪のごとく絵ゆは
山乃やうにも成とゆう
たゝて何事も倦ゆや
気とながく絵を心がける
事と俳紀とそいヤ也

池水ゆ去ぐしが紅ゆ陪きへて
氷かくし積る去く雪

叙

中むしのおろかなる今川了俊と同じく人
我ふの仲秋と云人ハ教訓の落ちかき
殘さ侍り今川状と云ハ淮て女今川世
是て今かな法まり男共詞よく婦女乃
心ハ入度をしらぬ所ハ同さかハ寄て求
むる人ハかけをハ新ハ侍りしるべ乃式
幼雅乃教をなるべき事と書人さく
業ハ此世ハ作るをはかるべし

一

今川はなをそへ女
いまめ乃像く
常乃ふさし書
晩目にして女乃

男女日用　日項草

人間ハ男女ともに分おるまでハ大切ハ慎つゝしみ守べきハ堪忍の一つより一切何ごとにきても堪ておりと思わるゝ

一

彼釋迦如来乃住り給ふ天竺国とい堪忍といふことを婆婆といふ行業も堪忍せねばならぬ世界ハ人ハ婆婆世界婆婆の浮世と我も人もいとおしい堪忍乃浮世といふ事とハ思ひを其紙をひきまゝなる人乃縁けとハ堪忍せ守りやと

不明事

若き女ハ出益の

寺へまいる

事ハ

昔の人乃書おれし言乃葉ハ確とハ世ハ知しし話などと今ちに云号乃書あつて教へん

一

○夫女ハ生れし家に乃時ハ父母の仰せに志たがひ嫁ハ志くい夫男姑ハ従ひ老てハ夫に従ふが道乃是

小事ハ

思慮

小しく考おく

何ら小さ雖

ども

事

則なんぢこそ孝忠にあく姿べ
父母を理かる事と作りて
時ゝや夫いと云さりれども
すべ頼者なくて此諸を
やて是すかつち従の道ふ
けん其いや夫いと云て紀を
おりと押てかくが孝忠を

一大事をも厭
うく我ふらく
人なるかるゆ
を親は源ふ

○右乃やう教とやけまべ
ある人のつみハ私いけつきて
氣が短く無理とおりひて
其孝忠ゞで紀ませぬとゝ
けまべ和ハ氣ゞ短きことや
其短き氣とやハ行人何す
あるゝ世あれとやされ
けゝ此若みハ考りしとそ

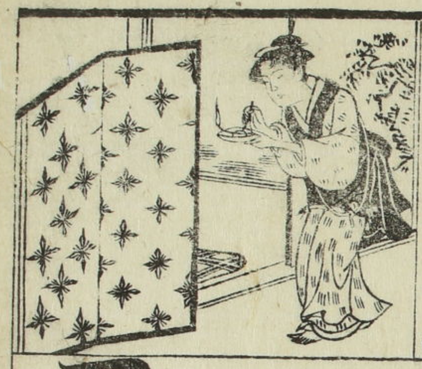
一

忠と忘く忠孝
の道ふるまを
吏とう術しめ
強くしてたゝじ

○氣といへば人の氣人なとへい
釜にて水と煮れば湯と成
たのゆげハ則氣なり
人の氣も去まに同じ性質
あらば短き氣ハ何天長き
氣い何失と定り有べけれど
氣ら短といへ我ま育なり

一天道と不忘事

一道ハ省て業を
ちとうらやみ
祈ら事



○ある人の女房ゆと風乃
ちちそ病の床ゆふ
けっこうぐむ門きこんも
あらで彼是とそりまて繁い
ゆゑ乃ゆまくくと除やうに
なりけれハ今ハや人ゆ結ぶせ
ぬや頃ろい家あげさせんを
ゆりとんゆまくをどこ乃日の

一正直にうそ嘉
ばかもとうろ
しむ事

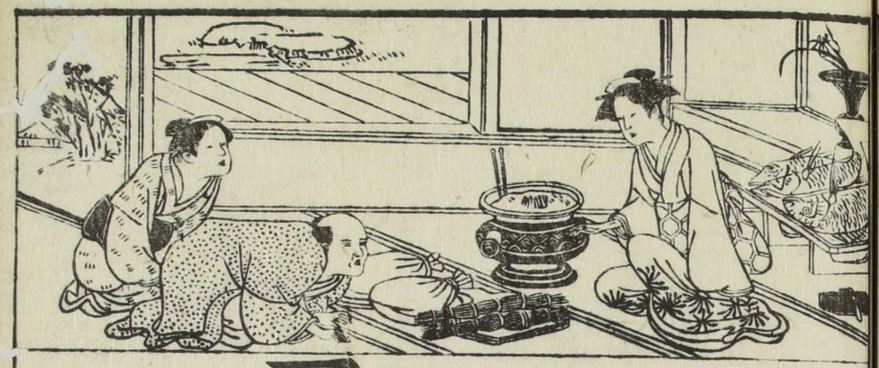
一接ひよ長ど成

或ゆ暮ゆ其家ろめ仕
十六八の女ゆをし火を持
乳り彼病人の枕もとへ
接ゑうしてかや火の光を
其し病人の乳し髪に熱
付くを熱きまゐそ恵ざ
そみ消さんとする色どを乳し
熱なれば其所此所とそ人
ゑろがり騒くけき白い家
み満る病人も其ごろきしい
ゑかゑゑ気ろ乞き氣力
なくてやゆいかよはきるを延
頸と抜けるが髪毛い強く
焼きれ尼は呼をうなるだく
滅れい下女が広い乳もそ

なき男へて唯なくよう
おかりきむさあるべき家
なる家の主をけ家内
えさはぎけるを病人れを
制し枕とあげて主ゆむ

府臭武士無
もの紙好事
紙を解て嫉妬
の心ふかく人妬
嫉を不恥
女の精利根
迷ひ為事に
つき人をそしる

誰しも怪我あやまちと
好きのこそまる者あるはこ
つる相撲も倒すくひし
えべして今彼女を打擲
責せめ請人と味付
非とえうけ楽どくるめ
なり小て自が髪の今乃
間ゆ絶ろこそもあるなど
病ゆ郎く髪くら鬘にも
あるべき経が自さえ不肖とえば
人ちえ来すこ病気ぜん
快まで日とうとうとうあい
髪もこ人ねどし只根伏ゆ
ちく楽ゆいえ後とたーかめ
よ小をれ去りり遊して只く



人去中ごえ金て
えとゆ結といく
市と楽す
道具衣裳ゆ去

暇羅にてて石
ひ見若事
貴と縁も世の
ちつ好き事と

御宿先と妻の中色き
口ぶりに主も怒りをと
ちがへらる下女がんの中
の有ごさき何ぬたくんさ
なく口惜と涙く涙ひて
神明仏菩薩ぬ乞願し
奥様にあやらき平金と
祈し斉特わ某ぬ
くやく涙者いんしれ方に向
月とかさわく平金ありしぬ
焼ものらい髪も今ならる
つくは定て昔に寄ぐ臣
ところ足ふと紙くりんぐて
懐出と去ゆくい結ふぶし
金つぬやしきんかと

一
不孝無氣況と好事
人者此と思ふを
以て新知と
思ふ事

其時下女が年十八歳ぞう
夫より居眠くりて寝かく
釣しび起さる事もなく
昼夜ちろと隠て主人と
大切[illegible]い苟ひしぎ
んと畫し左右ぬ氣乃付
来かぶみぬ新の移るおく
夫婦の思ひおくに従へ

一
お安ぬ門を出
少いふ例
年ぬ多ぬ
一
我分際と去ひ

けれ主人も後ハい奉公
人をなをゞ日と送り
光陰矢ハ如くをゝ
五年の長ゝ年むゝ
縫針乃道もかゝ
神妙の物でやさしきと
ゝく入るゝ嫁を
貰ゝ紅おいふをのゝ
えゝゝ仏下女が父母ハも

一

下人の名前を
聞へ出ぬ仕やう
不可

嫁入ゝと女しゝ
主人の情あり
楽が身の片ぎ
あゝと女ふを送
或時下女が文
主人夫婦ゝ
其方の姉
相条とゆゝ
感ゝ悪と

一

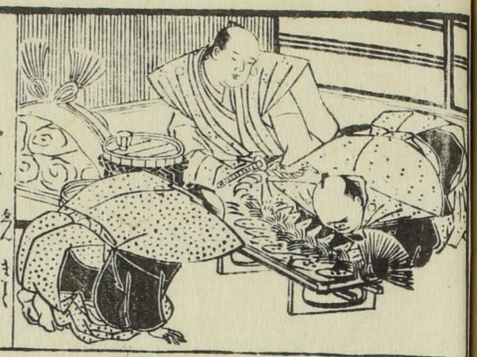
或婦式不足ハ
聞へ出ぬ仕やう
不可

一

男女ハ
行て
捜ゝ
縫ゝに

奉るの志こと世のたぐひもあるほど余り神妙なる史
折節ハいづれも無理をもいひ難面をもなしまるか
時しをありけるぞ世の中
脇と立る氣色もつくづくと
おぐわき入さる仏座史
麼美として家屋しき
一箇所ばかりとて詞文
と二紙の結りきれい敬び
ぶりなく似合しき舞と
存れども女ハ一番のこ
ともケ程まで有ぐ
主人のれこうを
兼忠の人と連添ひ

一



かしてハ有るべき紙ハ紙
出雲の神ハ縁ぶ
少て年こすすぎる
奉ることしめる夫史
其家の仕頭の妻ハ
ぶし主人の差図
夫婦となり家富さ

一

人ハあざけりを
恥ざる事
なるにハ縁親
者ハいふ
とも親をなる事
家の勝まるを嫉ひ
地ハ立て活者を
忠する事

子孫繁昌すく今の世まで代〳〵後てはこの本町の中ゆ国出発様こそを此人の家とゆ是かゝ少よりかゝる幸福と得ようけるべきを幼稚こそよりも堪忍とい幸とかゝげて仕合こそ結ぶだ〜

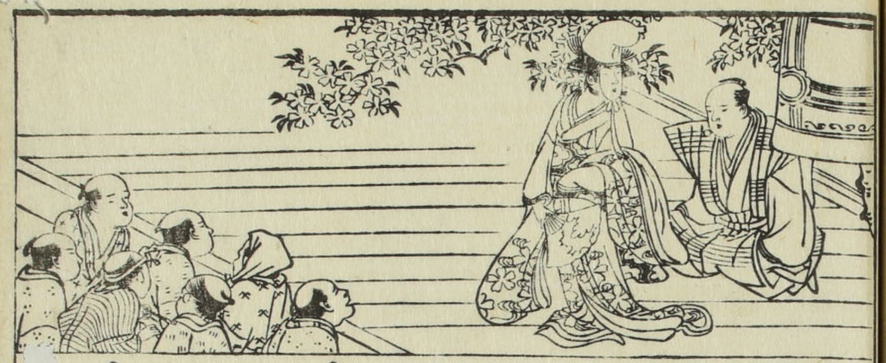
一人の男の付き家の財しいうを何しか無のう右は象〳〵常に

○堪忍といへば腹立たとすく人の幸のやうに中切り人多堪忍なりなんへば何事も一切こそ堪忍なりなんへば花見ゆ紅こそと切り無薄る人あり其紅こそを堪忍して止さんとそれすむ事なり

女の乃話よみぐろうつしこそ嘗こそへ不孫といへども移へ作しむべきなり

夫と足非ゆるとゐを
何の角のと詞ゞ多く
腹乃丈やうに成ものゝ
強て仏乃四て祈ぶ
業の叶ひ叶はぬ業ゐ
我ゐろゐ身て又るが
よし足い云出ても出
来まじ出ず業い彼
塩出とそん出ていゐ
出さわがよし我勝るの
よれ来い人の勝るにい
あき少我ず少伝出い
させわ道理なりたゝべ
十ある物と六つ有るべ我
よけるでも人ゐるゐど

先家とちゐへきゝ
出一慈悲源く正ゝ
ゐ祈ゞく度し出
こゝ陽みしく



強く地治ゐして
和のなゐ志ゐるに
強ち湯ゐ沸ゐず
天地自然乃道理

○とぶく腹の立つれば
来と考えるまゝ
我身ゆゑなる道理と
いながらいも理とつけ
人の非とばかりあげく
はめしくなるかして
我身ゆゑしくゆゑを
其儀懐といふのと腹立
といふなり和らいて仕まい
胸がさいなうなる者と
いふ是をかつら喧嘩口論
なると物して来い来乃
出来るハんやもく無ゆゑ
するゆゑていい出て来
なしバ言勝なる其訳が

左右方少をゆたくけて
すまゝ物少へ仏をすれ
人なら嫌しかるて中
かとうと取もち左右方
堪忍してえ来もの如う
仏やもくなるゆゑ
今ゆゑ成てもる堪忍と初
堪忍とすればバ物いひ
すむ来へかんぐへ絡ゑ

ゆゑ小夫婦共
みちを花ゆたくへ
れで夫と天乃
くうゑまい

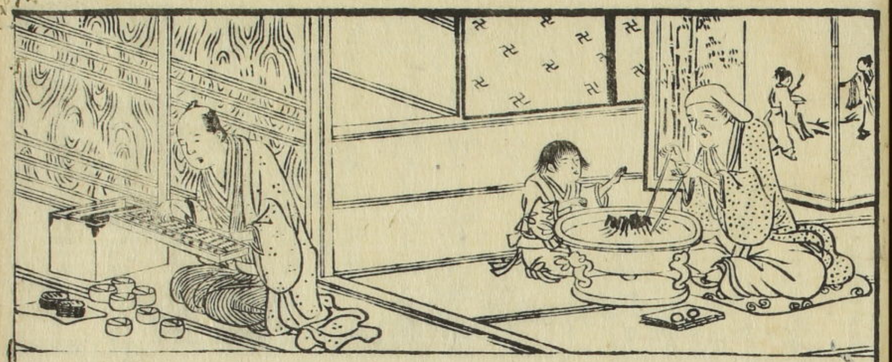
ひゑ堪ハ
天ゆゑとうゆゑく
為物をゆゑばるよう
失を生じ無ゑ

○小条時頼殿陪席し
結ひ入道ちく最明寺
殿とやせしハ歌人にて
新和の和哥百首を
よみ給ふ事に堪恐
乃哥に
我よれ人のあきゞ
あゝべちて実と我
分も哀ハひけきで

実ハ此うゝこのちく我
分とかゝる君をバ人どろ
あきハあゝべ我分れ
上ハを何うちゝあき
事も者ゞし少者ん
めゞしして堪恐ゝべ

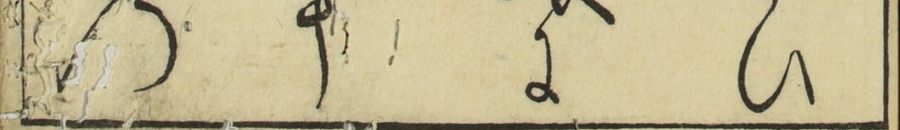
れ女は孝も表
道は仁義礼智信
乃五常の道人の
おとゝ
約ゞ是きゝらかも

ゞ
ゝ
無きは仁乃道
ゝ
ゝ
ゝ



亦一首の歌

我身さへ我ちからにも
なるべき人とちからを
頼たゞきやハ此世界と
隠ていなゞ我かゝだて
背中の痒きハ其所ハ
よりて我ちからにもなりふ
るまハるがゆきかゆる
事あれバほてやんの
心くなるよハ世の中
と取まぜて我心のやうに
なるべき道理をしと雑へ
ちらして思ふ通ふ自由
ハなりねをのとこゝ
ろんふんと仕なりたし



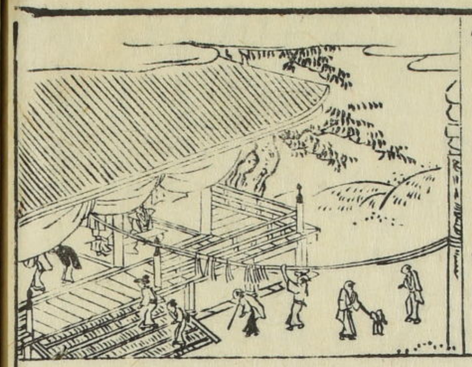
○親孝行にするとは
事と殊のほかむかしき
やうの男よ人ありた
ぬ六ケ敷ことにあれど
夫といふにとりては人今日
貧しき身れとりてハ親
行見ぬふりをしとり時
金銭をかりしけまべ酒肴
のもてなもかけまべ酒の
用意も出来ぬとなく
工夫とめぐし肴とかて
瓦なる煮物に食なる便利
元選の代りに古風品補
などれ仏ばくい是ら実ハ
孝行いかりしきいん

ゆへる家とらく
をもり川女ハ面き
と言ふ其美
ゑ物をなる女ハ

今日相魚ハ人し金銭
をうつ分れ上なる人ハ
親くるえハゆうとあれば
持命ろ辛苦小酒倚と
百姓と人ハいん付重詰
酒肴ろと様へなにひろ
不自由ハけまべ親の供と
ちくりをるを何もかりし
き来ゆくハ好きこと

えをもびいの屋
しきまを好し
ちしく人くゆ
ゆるを日ぶる

又貪賦して歳も歳
老く哭も弱く花見物
まいりをむかはを称だ
其ゐるとらまと背中に
負なして行もあるど
是等おそもひけりき孝
行なるおかをいまど



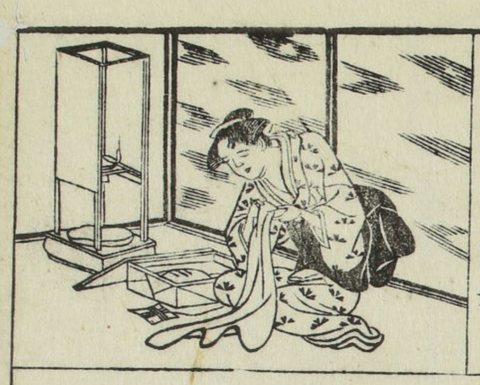
心不叶あり
きとそら若小
をひらを
おとし
治こう孝ぎし

茶あをいつぎしく今日
行不自由なれ分をそ
別ゐ家孝行の仕やうは
おしーぎよはけをは駕ゐ
糸て供して行ぐるとん
何も六ケ敷とはあしじ
老るを孝行出来ぬ
やうにいふ知しなるを
おしけを不足なくて
今幾の有ゐ内を何を
笑ふ彼が然しと有上ゐ
於ぎ志のをとつふゆ父母
志れと制すをば肢を立
ろ言をいふ中て逆らふ
人ぎ是を不孝とふ

女は家ゐ
ちと守ゐ事
れば先ゐ者の
ぎう儀作法

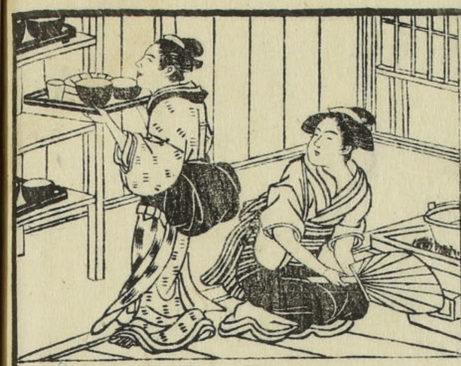
西しらかゝ
間者行てゆき
一族の志ゝしは
西し歳地ゝ

せめてハ孝行ハせんとを
親のこゝろに逆らひ世話を
やらせねゝそ不孝なき
身の孝行ハ新ゝ形
孝行の志やう有度
けをいひ行しき事ハ
あゝたと古きの詞ゝ



ゝに我身の
行花ゝこし由
ゝ毒仕法

その其れやくみ世話ものせぞ〻ゐ逆らわぬやうさらがけが素是まさひいひしき素にあくだり堪忍といふことをいきまへ志後び勧めかきくれ人ゐ世話いやりせね道理ものゝ



ざるばをひるは
僻事なるへし
人ゐ為ゐ理と
はけて生れる

○ある老人のやうゝい世に合点のゆゐ素わり奉公と十年二十年とけとひるい堪忍とよく仕貢祢び勧まくゐ物ゐり娘のゐい十せゐ家まて勧のゐえゐ居くまり嫁入して嘗所とをなくさくゝ後ていい片付ゐん付ていみさらくゝ娘ゐり是堪忍といい素とゐくゐと又へかり去をてをどれば其後ゐゐ近所とゐり一家一門にふゐくゝ此時ゐ堪忍いいで去くゝ堪忍

こいへども成ら
若人ゝ成ゐ無
忍となりてゐる
ゐ邪如ゐ

たてからくやう詞もなく
唯とうぶき所第六を
搭悪してゆるさを合点
ゆるべ今すゐ搭悪と其
嫁入なる處とてかんん
たく詞もなくとうり
ひき居るやうべたくにい
おやぬきじとやさしきを

ちゑ
とふ男子てら
とうと学問と
仰さ
ゆめさ好みを

親孝行の志あるを
よみまる歌
何事も唯おいて
きて入て歌の紀ゆ
いろゆうが孝行
此うこは何人うよみまる
作者たくばといへども
ありがたき詞やうの
心ばけ歌ゆ作る時い
ばてもいうき業
にあらばと心安く思へ歌
孝行を仕習たまへ
世の中にあるうるあ
うへあれば忘れきを
よ学ふ心ばうべ

おとむ
孝行道となる
ひとも有と
いへども如子は
ゆうへ人の

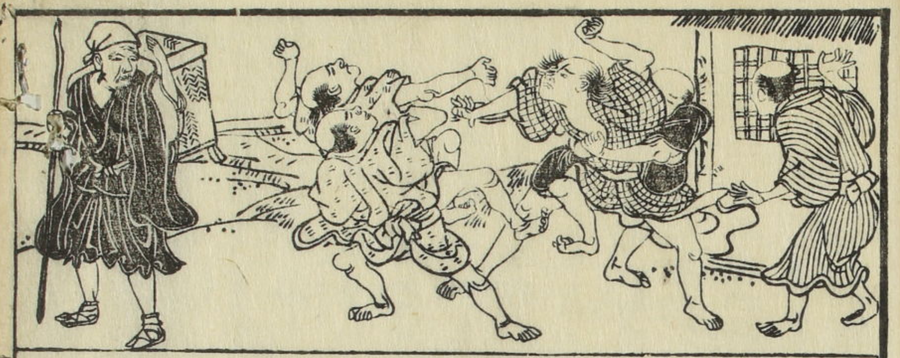
○世のたとへ言ふもやはし
定親といふ者は曲たる
物をえん競みすれば曲を
えへめといふ譬より悪
事をなくを悪人とよ
者にしていふ時は盗して
を人と教へいせわといふが
ごとし是芸者をえて

好ちの女房にて程
なくして他の家へ
嫁ぎ
もの夫をもつこびひ
湯始めつふまつる

不義にてげら笑ひ
なごとをよ本ゆし給ふ者
かれ女よい貞女とよか
ゆして義人をえ申べ
者うもれ侍きと世間の
人ゆ参り給ふ者のへ

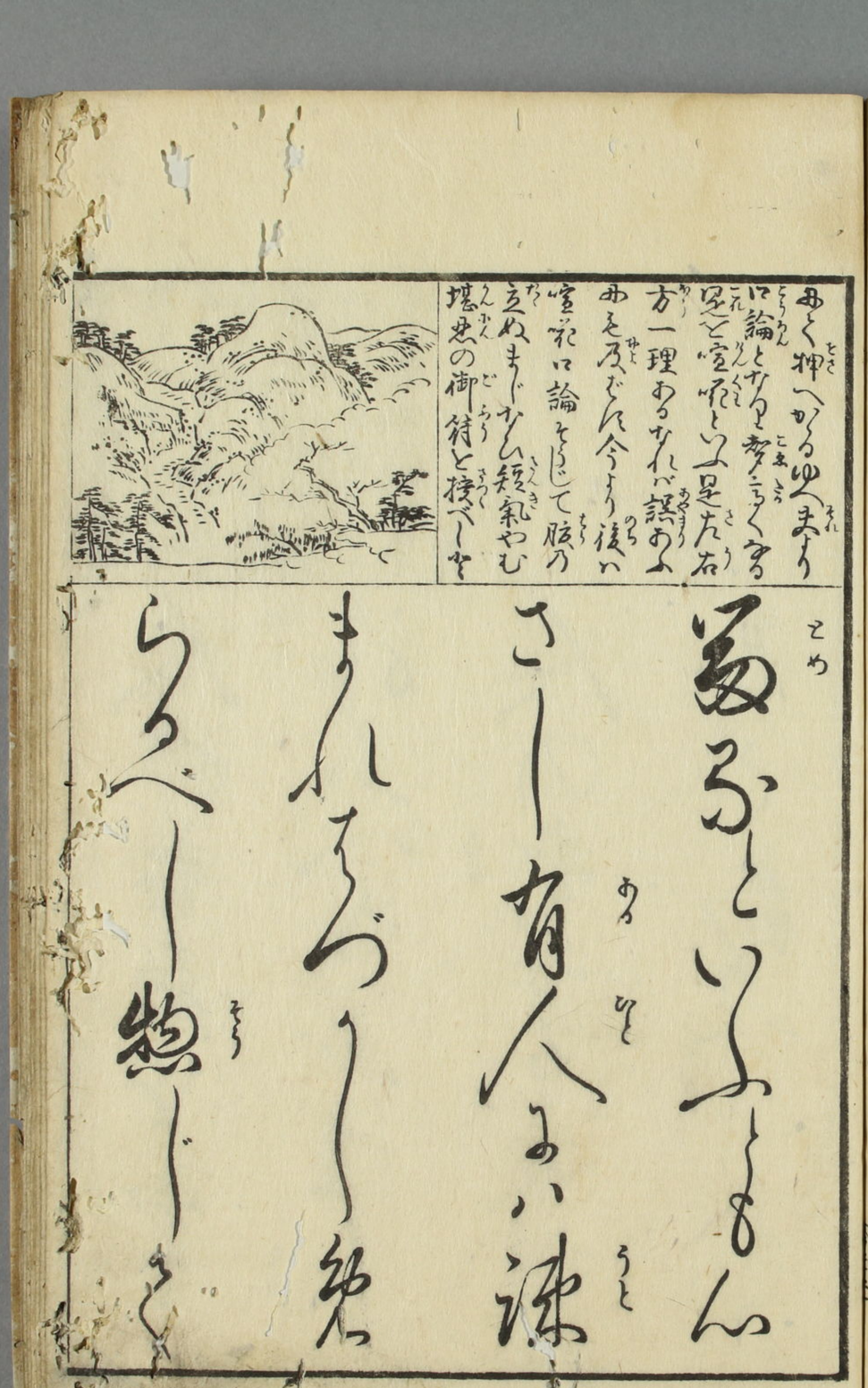
べき事なれば
親はなほ知るとぶまるハ
婚礼の儀式
為

中むしのころ京都ゑ
夢窓国師とゆもるか
智識ましまして狂言
と讃く元せを添色
諸国行脚ト結ひる
時ゑ播磨の城下姫路の
町そ喧嘩ありて人く
立さわぎ者すきどもた
右方さくのもせどなかゑ
屋ゑ入てをりみ合きるが
一人の男国師と云名を
契とりけ相手ゑ申しうん
云やうけんくを皆
まて国師様ゑ理非を
聞分てかゝい其うへて



うべし況や都と
治る世ゑ胡夕の
喧あたく云葉
そ明く正なれ

理の悪き方い誤るゞ
ゆえ左方得ん〻して
國師の者ゐ膝まづき
たゞゐ理とつゝく爭ふを
國師きゝ結ん宮ふやう
數て嘆死に論爭い
事い一方ゝか無理あれば
無理と知りていつゝを
強くいはゞゝ理非乃
分らゐ者い強くをえべし
さゝりて者ゐ取わゐい都て
理の方が負なり左右方
ゐ一理ゝく有て時め拘
るゝく詞とゐい業乃義
後して互ゐ爭ん理と理



ゐく押へゝる必まり
に論となると考こゝく宮
思と宣呪とゝ足左右
方一理あるかれば誤ゐ
ゐを及ぶん今より後い
宣呪に論をゝじて脇乃
立ぬまゞかん短氣やむ
堪忠の御待と接べしを

おのれ家を立よりゑい
硯をさしをさらくと書
をてめあ人の者を接て
立さうらいきる家乃主
其議行とゑに取て戴
拝見すれバ護符ゆゑ
あらで一首の狂歌とぞ
書たまふよみくゑ人ハ
在の人のこゝ理と
道理と聞かゞし
我理といもだ
うれしいて居し
誠ゆ是ハ結構ゆの護符
なり此奇のごとく我も
相よもかゞうに心ゆ戻

人は皆善悪と志ゑ
ゆらるべきふはゝ
人の生する者と
見ゝく彩ハ我ふ

物いゝ多い口論けんくゑ
空ゑ云ハ則かんゆん乃
理ゆかるい短氣を押る
基なり有がゝ御符
かゝと人ゝ感心して其
ゑ乃守袋ゆへるて書
写し諸国にをてくゝ
ゑるが人ゝいむ中成て

徒れる者を好み
おのれ
ゑるを者を
この
不好ハ貞女乃心
たし
徒ゝ

ある人まねをして人をそしるべからず
やうの有がれたき詞
あく理といきまく人を
唯柔和にして従ふこそ
よけれ女は殊更をの
ずから女ふるまひ

○誰身の上をも我身
の上をも時の間ちがひ
了簡違もない言葉の
跡さえ聞下ゑ言べた
言接い聞そこひい等
よと物いい癖おとる
事なり恥ぬいそそ

なくさき紛しく成さ
不知知人を教
ふらてハ為調
ぐつて我心若

八月なほ今く我うあやまりこ世をと誤乃やうに云かけ後て其場く云ひきせ称だ人の角まへ口惜紀少云ひかれば我不調法あやまりと成と恥上に我ちを左様のん底なる者をいと我と我身ハ我ハをそ理をはく人の角をまへをあり少唯一すぐうり思い詰るより是塔ゑと口論いさうんと成ふ

ゑと思ひ為ん知

ゑと誤ら音信

紀河ハ新ひ

ひと

ひと

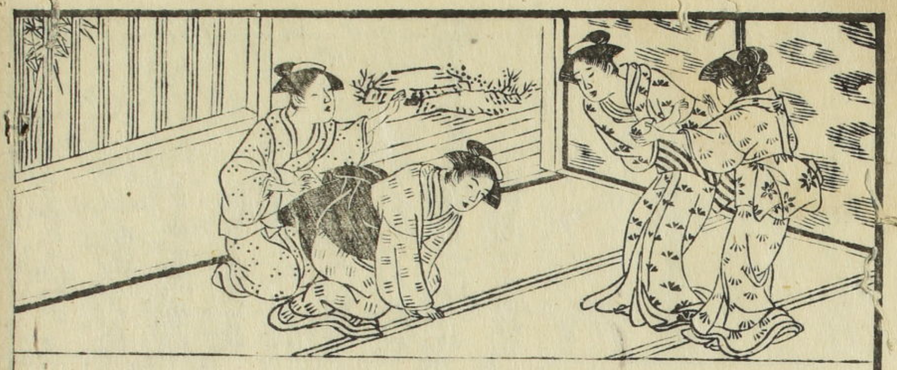
知るべ

たず

こしぐざいと茲が主格大事の分別所なり其時ち汚と押銭や用とぬさだて思ふハ我日ぢろ年比ケ程の事なれやうハ平生ちろげ物事を念入兼相兼未とせば不調ばあやまり世ば其下寧なる事い人くのみか結ぶる所なれを今この多勢れ人中で我あやまり也不調ばを作と云なり少を智恵ある人い我あきりてい かけまでを彼是と言

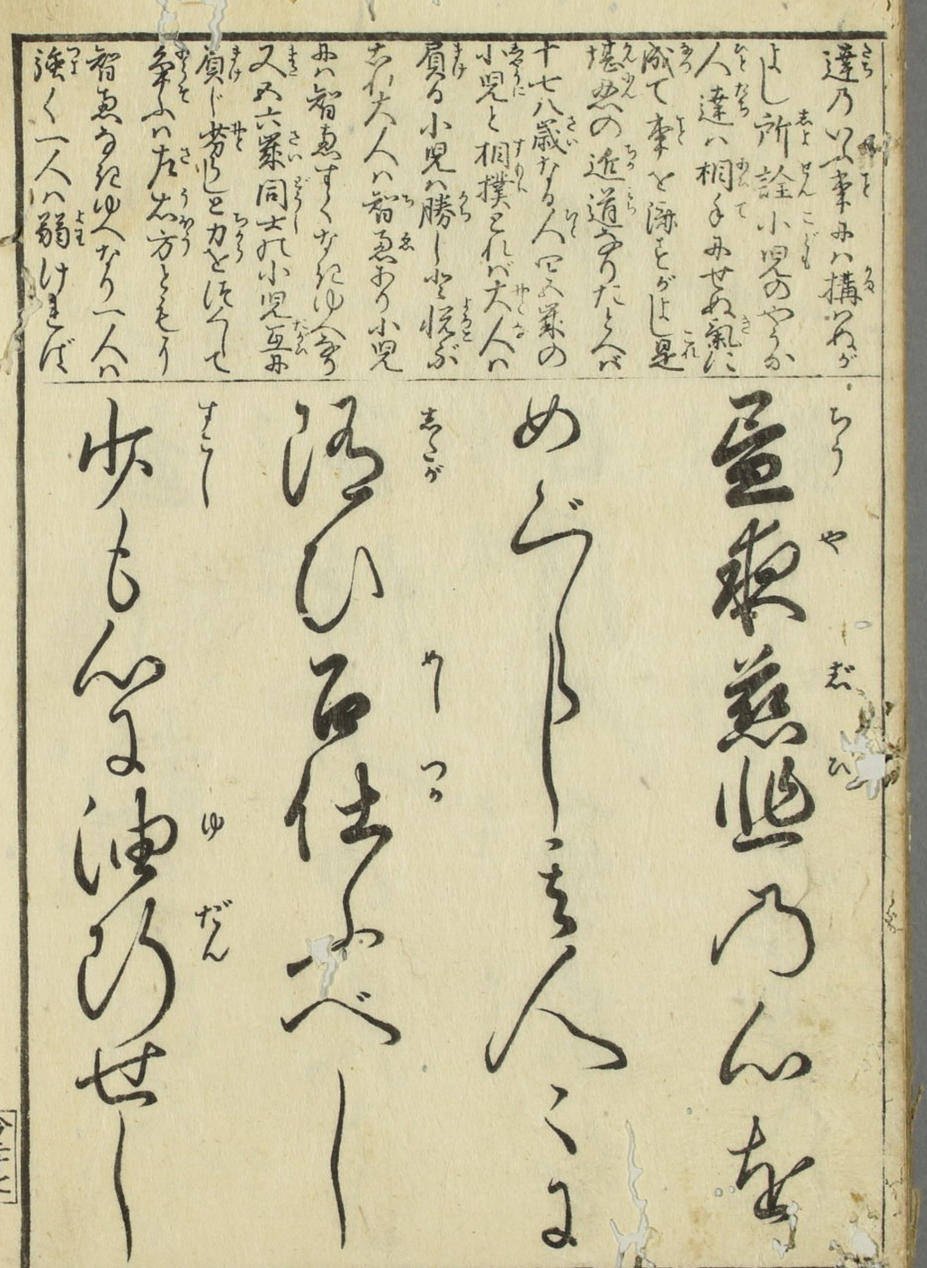
詳す徒べ詞少け多く
あしび多くなりやすく
こ男ひ言沢もせんば
誤いとして其衣表と
志まふる心底ねく
堪忍ぼうきんうかと
考えるべし又智恵なれ
者は其人の平日れ変
善あ えん外ゑ保べ候
其衣の詞を聞く系
後の考もなく善あの
評判して徒あて誰へ
誰と言諸と誰へ徒く
の勝脱で一言もおりさ
なぐいふやうか智ち恩

世の中にもも
濁らと仏は測の
あるかぐ拝有
こてと思ひ恩者

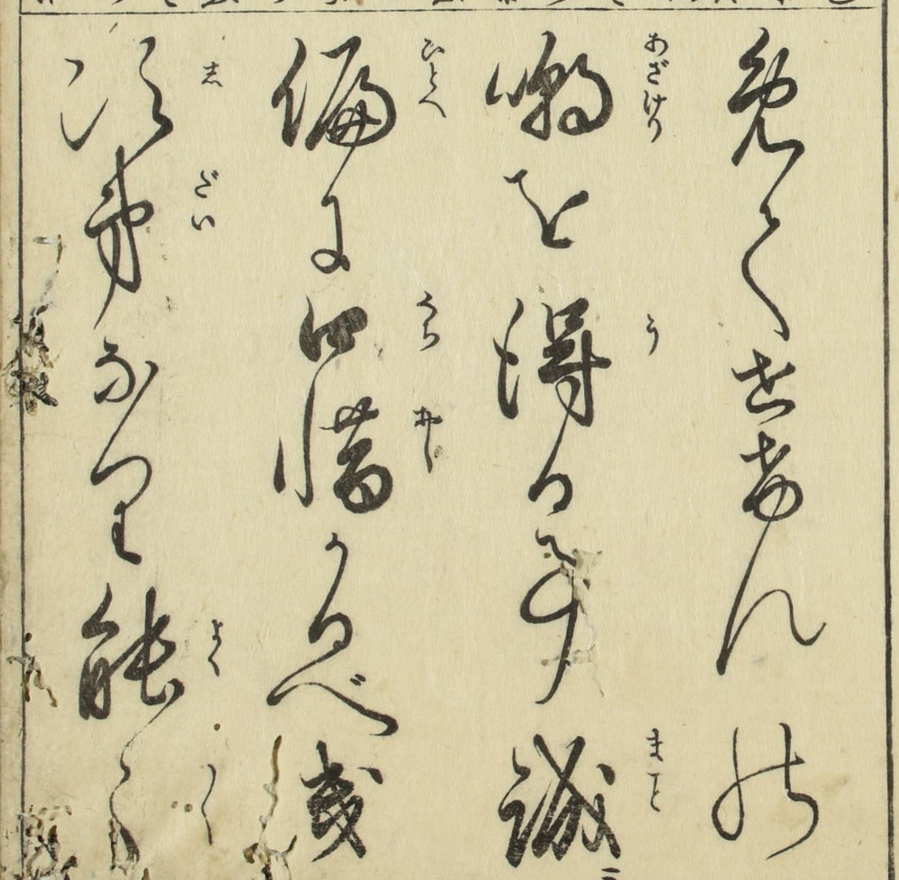


無数多の人を
石仏ふの大ふ
日月の東本を
照し給ふがごとく

達乃以事みハ構ゐが
よし所詮小児のやうか
人達ハ相ゑみせあ氣に
成て事と海とがよし是
堪忍の近道なりたとへ
十七八歳なる人ゑ又家の
小児と相撲とれば大人ハ
負る小児ハ勝し少ゑ怪ぶ
なり大人ハ智恵すくなく少ゑ
ハ智恵すくなれ少ゑ者
又ハ六家同士れ小児互ゑ
負じ劣じと力をはりて
事ふいたる方と方とをもう
智恵なれ少なり一人ハ
強く一人ハ弱ければ



事いたる理非もく比べ
たる右方一理ばく有ゑハ
事ハとなる智恵ゑ人ハ
理と理みせば其時の不
よく事の有ちがまるを
肝要とする是もすかりち
堪忍より出る者のたとへハ
理の強ざと非の一倍とハ
理強ければ人ゑ心意
恨みなりふゆ人我ち強安
ゆくば是理ハ人ハ知ちゐ
なる人ゑれば小児とすま
有ちゐて是理ハとと
勝しそれと世上ハ人の
知き人と参ゐに



あるじや絵れい堂主の道とふるうるげ絵くんぐてゆかしき人み城ものをしゆを六十の翁庫つゝ来とそに記を日頃草終

女中ぐさ見結ぶき本

江戸日本橋通三町目 蔦川六左衛門

万花百人一首常盤亀

三十六歌仙の秋の色と絵おもしろい美人の顔ぶれ七夕おりゝとぶし教初で嗜でもふしぎと絵を

万寿百人一首錦箱

源氏五十四帖の景色と絵にあらはし美人の香の図と書くゝ女中の嗜やさうこ用流の便とゝ

群玉百人一首筆錦

女手習状ふみぞらへ人の持やう歌方十二月の歌乃心と絵ぐゝ女はゞく八月六歌の手本おきと祝と

群花百人一首和歌園

女中一代の重宝と考ゝ三階三階の格式やゝ諸の講釈と絵ゝ女の合手安き様と考ゝ

女錦百人一首寶織

貞女賢女名女物語と絵ゝ面白く書ゝ小笠原流ゆゝの折ゝと諸礼ふ祝ふと集ゝ

しんかいんぶ
やくこと

要百人一首操鑑　女今川要ニ入来あまたゝび板行と二階ニ落
彫りて名所古跡の景を絵ニ仮名日記し

四百人一首寶箱　女中てゝ手習ひて文章これも二階板行
花鳥風月歌ひて奥合の故実ならび帯ゝ結ぶ

女傳記百人一首教草　女今川状并ニ四季ごとの諸流ニ
誓古ニ仮名の帯ゝあまた書あつめて大冊ニ

女文寶智恵鑑　女用文章女今川ニ入ふかく文章なる筆ゝを
ふく書ゝ其講釈ゝ仮名ゝ世ゝ

女文章四季詞鑑　女ゝ文章ニ四季ごとの詞ゝ異名并ニ
四季花の字義風景ゝ仮名ゝ幼稚の教ゝ

女今川状雛系　頭書へ入ゝ仮名ゝ仕様ゝ代筆ゝ
仮名書て同ゝ感ゝ講釈ゝ面白く記

豊かなる世の教ゑに頼ゞて本餘多ある中に
幼稚乃用ゐやすゝ為にとて小尾氏の妙筆と
かり敬ゝて仮名ゝ風俗を絵ゝ誠乃道ゝ至るべき
それ素と集りし梅の花あやふ菜月の夕雪乃曙
むのべうゝ鶯の書ゝ成ると偽ゝ未ゝ毒ゝて静
なる四乃海はうちゝ弘ひるゝ絵ゝ

寛政十年
午正月

畫工　北尾政美
剞劂　杉田金浦

東武書林　江戸日本橋通三町目
前川六左衛門　梓

撰要百人一首操鑑

女今川并に入来あまこ人板行と二階之潘彫刻して名所名跡の事を終に花雨日記し

女用百人一首寶箱

女中こゝ四季おゝ有りて文章これも二階板にて花鳥風月歌ゆゝ奥合の故実ならび潘ごとを記す

女傍訓百人一首教草

女今川状并に四巻ゆゝ文章ばかし諸義をかなり誓古を仮名の潘とあまこ書あつめて大冊にし

女文寶智恵鑑

女用文章女今川入来ふゝ文章なる筆ども多ゝ書を其講訳とたゞおゝしかりしゆきあん

女文章四季詞鑑

女文章のもじを調ゝ文章変れゝ月ゝ異名并に四季花の字義図畫ゆゝ絵ゝき幼雅の教ゝ

女今川状雛系

頭書へとを使ゝ方ゆゝの仕様ゝ代後ゝ事を絵ゝ書て同ゝ慰ゝ講釈ゝ面ゝ記ゝ

豊かなる世の教に頼ゞ其餘多ゝ中に幼稚乃用ゆゝやゝ為ゝ為ゝ小尾氏の妙筆とかり敷ゝこゝなる風俗を絵ゝ誠乃道ゆゝ至るべきそれ素と集ゝい梅の花あやふ菜月の夕雪乃曙むのゝゝゝゝの書ゝ成ゝと後末ゆゝ寿ゝて静なる四乃海はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寛政十年
午正月

東武書林　江戸日本橋通三町目　前川六左衛門　梓

剞劂　杉田金浦

畫工　北尾政美